

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウホクガクイン 学校法人 東北学院							
フリガナ大学の名称	トウホクガクインダイガク 東北学院大学 (Tohoku Gakuin University)							
大学本部の位置	宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号							
大学の目的	キリスト教による人格教育を基礎として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって世界文化の創造と人類の福祉に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	日本が置かれた東アジアと世界の諸地域を幅広く視野に入れ、そこに住む人々の社会・文化・歴史・言語の多様性を学び、相互に共通の課題や問題を発見し、その解決に向けて国家、民族、地域の壁を越えて協力し、行動できる「よき地球市民」の育成を目指す。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地
	国際学部 [Faculty of International Studies]	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
	国際教養学科 [Department of International Studies]	4	130	-	520	学士 (国際学) 【Bachelor of Internationa l Studies】	令和5年4月 第1年次	
	計		130	-	520			

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	国際学部 国際教養学科	159 科目	47 科目	4 科目	210 科目	124単位

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	○学部の設置		
	地域総合学部 (令和4年6月届出予定)	地域コミュニティ学科 (150)	政策デザイン学科 (145)
	情報学部	データサイエンス学科 (190)	(令和4年6月届出予定)
	人間科学部	心理行動科学科 (165)	(令和4年6月届出予定)
	○学生募集停止		
	経済学部	共生社会経済学科 (廃止) (△187)	(2年次編入学定員) (△4) (3年次編入学定員) (△3)
	工学部	情報基盤工学科 (廃止) (△110)	(3年次編入学定員) (△5)
	教養学部 (廃止)	人間科学科 (△110)	(2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2)
		言語文化学科 (△110)	(2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2)
		情報科学科 (△110)	(2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2)
		地域構想学科 (△110)	(2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2)
	※令和5年4月学生募集停止	(2年次編入学定員は令和6年4月学生募集停止)	(3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止)
	○入学定員の変更		
	文学部	英文学科 [定員減] (△30)	(令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△9) (令和7年4月)
		総合人文学科 [定員増] (10)	(令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△1) (令和7年4月)
		歴史学科	(2年次編入学定員) [定員減] (△2) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△2) (令和7年4月)
		教育学科 [定員増] (20)	(令和5年4月)
	経済学部	経済学科 [定員減] (△10)	(令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△9) (令和7年4月)
	経営学部	経営学科	(2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月)
	法学部	法律学科 [定員減] (△3)	(令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△4) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月)
	工学部	機械知能工学科 [定員増] (5)	(令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月)
		電気電子工学科 [定員増] (20)	(令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月)
		環境建設工学科 [定員増] (5)	(令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△5) (令和7年4月)

教 員 組 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新 設 分		人	人	人	人	人	人	人	
		国際学部 国際教養学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	99 (99)	令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定)
		地域総合学部 地域コミュニティ学科	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	112 (112)	
		政策デザイン学科	7 (7)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	115 (115)	
		情報学部 データサイエンス学科	11 (11)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	93 (93)	
		人間科学部 心理行動科学科	10 (10)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	114 (114)	
		計	45 (45)	32 (32)	7 (7)	0 (0)	84 (84)	0 (0)	- (-)	
	既 設 分	文学部 英文学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	235 (235)	
		総合人文学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	227 (227)	
		歴史学科	13 (13)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	237 (237)	
		教育学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	163 (163)	
		経済学部 経済学科	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	235 (235)	
		経営学部 経営学科	12 (12)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	212 (212)	
		法学部 法律学科	19 (19)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	215 (215)	
		工学部 機械知能工学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	93 (93)	
		電気電子工学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	97 (97)	
		環境建設工学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	112 (112)	
		教養教育センター	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
		ラーニング・コモンズ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		宗教音楽研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		英語教育センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		計	121 (121)	49 (49)	16 (16)	6 (6)	192 (192)	0 (0)	- (-)	
		合 計	166 (166)	81 (81)	23 (23)	6 (6)	276 (276)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員 の概要	職 種		専 任			兼 任		計		
			人			人		人		
	事 務 職 員		158 (158)			112 (142)		270 (300)		
	技 術 職 員		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)			3 (3)		13 (13)		他図書館委託スタッフ 39人
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
計		168 (168)			115 (145)		283 (313)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	167,415.30 m ²	0 m ²	0 m ²	167,415.30 m ²					
	運 動 場 用 地	59,142.06 m ²	0 m ²	0 m ²	59,142.06 m ²					
	小 計	226,557.36 m ²	0 m ²	0 m ²	226,557.36 m ²					
	そ の 他	126,097.07 m ²	0 m ²	0 m ²	126,097.07 m ²					
合 計	352,654.43 m ²	0 m ²	0 m ²	352,654.43 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		150,453.56 m ² (150,453.56 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	150,453.56 m ² (150,453.56 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	99室	40室	186室	11室 (補助職員8人)	12室 (補助職員4人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		国際学部	国際教養学科	14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	[大学全体での共用分] (図書) 982,278冊 (雑誌) 14,592種 (電子ジャーナル) 4,111点 (視聴覚資料) 16,512点 機械・器具、標本は 学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数		
	国際学部 国際教養 学科	203,469 [87,063] (203,469 [87,063])	29,842 [29,665] (29,842 [29,665])	29,571 [29,512] (29,571 [29,512])	139 (139)	3,017 (3,017)	84 (84)			
	計	203,469 [87,063] (203,469 [87,063])	29,842 [29,665] (29,842 [29,665])	29,571 [29,512] (29,571 [29,512])	139 (139)	3,017 (3,017)	84 (84)			
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		17,571.54 m ²		1,146	1,522,222					
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
		9,197.65 m ²		野球場2面、サッカー場1面、ラグビー場1面、トラック1面ほか						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	図書購入費には 電子ジャーナル・ データベースの整備 費（運用コスト費を 含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		1,376千円	1,376千円	1,376千円	1,376千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		364千円	364千円	364千円	364千円	－千円	－千円	
		図 書 購 入 費	0千円	11,127千円	11,127千円	11,127千円	11,127千円	－千円	－千円	
	設 備 購 入 費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
	1,414千円	1,144千円	1,144千円	1,144千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、私立大学経常費補助金及び資産運用収入等							

	大学の名称		東北学院大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
既設大学等の状況	文学部	年	人	年次人	人		1.02			
	英文学科	4	180	2年次6 3年次12	762	学士(文学)	1.01	昭和39年度		
	総合人文学科	4	50	3年次2	204	学士(文学)	1.04	平成23年度		
	歴史学科	4	170	2年次2 3年次3	692	学士(文学)	1.02	平成17年度		
	教育学科	4	50	—	200	学士(教育学)	1.05	平成30年度		
	経済学部						1.02			
	経済学科	4	440	2年次6 3年次9	1,796	学士(経済学)	1.01	昭和39年度	【文、経済、経営、法学部】 (1・2年次) 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号	
	共生社会経済学科	4	187	2年次4 3年次3	766	学士(経済学)	1.04	平成21年度	(3・4年次) 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号	
	経営学部						1.02			
	経営学科	4	341	2年次6 3年次8	1,398	学士(経営学)	1.02	平成21年度		
	法学部						1.02			
	法律学科	4	358	2年次4 3年次6	1,456	学士(法学)	1.02	昭和40年度		
	工学部						1.03			
	機械知能工学科	4	110	3年次6	452	学士(工学)	1.03	平成18年度		
電気電子工学科	4	110	3年次6	452	学士(工学)	1.02	平成29年度			
電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度	【工学部】 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号	平成29年度より学生募集停止(電子工学科)	
環境建設工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.03	平成18年度			
情報基盤工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.01	平成29年度			

既設大学等の状況	大学の名称	東北学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
	教養学部 人間科学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02 1.01	平成17年度	【教養学部】 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号	
	言語文化学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02	平成17年度		
	情報科学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02	平成17年度		
	地域構想学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.03	平成17年度		

大学等の名称	東北学院大学大学院									
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考	
既設大学等の状況	文学研究科	年	人	年次人	人					
	英語英文学専攻（博士前期課程）	2	10	-	20	修士(文学)	0.10	昭和39年度	【文、経済、経営、法学研究科】 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号	
	英語英文学専攻（博士後期課程）	3	3	-	9	博士(文学)	0.00	昭和41年度		
	ヨーロッパ文化史専攻（博士前期課程）	2	5	-	10	修士(文学)	0.30	平成9年度		
	ヨーロッパ文化史専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(文学)	0.16	平成11年度		
	アジア文化史専攻（博士前期課程）	2	5	-	10	修士(文学)	0.40	平成9年度		
	アジア文化史専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(文学)	0.50	平成11年度		
	経済学研究科									
	経済学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(経済学)	0.12	昭和42年度		
	経済学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(経済学又は商学)	0.33	昭和43年度		
	経営学研究科									
	経営学専攻（修士課程）	2	8	-	16	修士(経営学)	1.06	平成21年度		
	法学研究科									
	法学専攻（博士前期課程）	2	10	-	20	修士(法学)	0.40	昭和50年度		
	法学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(法学)	0.00	昭和54年度		
	工学研究科									
	機械工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.68	昭和46年度	【工学研究科】 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号	
	機械工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	昭和49年度		
	電気工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.18	昭和46年度		
	電気工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.50	昭和49年度		
電子工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.31	平成22年度			
電子工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	平成24年度			
環境建設工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	0.81	平成22年度			
環境建設工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	平成22年度			
人間情報学研究科										
人間情報学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(学術)	0.56	平成6年度	【人間情報学研究科】 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号		
人間情報学専攻（博士後期課程）	3	3	-	9	博士(学術)	0.00	平成8年度			
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要															
(国際学部国際教養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
T G ベーシック	人間的基礎	聖書を学ぶ	1前	2			○								兼1
		キリスト教の歴史と思想	1後	2			○								兼1
		キリスト教学A	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学B	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学C	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学D	3前・後		2			○							兼1
		共生社会と倫理	2前・後		2			○							兼3
		科学技術社会と倫理	2前・後		2			○							兼3
		よき社会生活のためにA（法律）	1前・後		2			○							兼1
	よき社会生活のためにB（福祉）	1前・後		2			○							兼1	
	よき社会生活のためにC（健康）	1前・後		2			○							兼2	
	知的基礎	リーディング&ライティング	1前・後		2			○							兼1
		クリティカル・シンキング	1前・後		2			○							兼1
		情報リテラシー	1前・後	2				○							兼1
		統計的思考の基礎	1前・後		2			○							兼1
		科学的思考の基礎	1前・後		2			○							兼6
	課題探究	キャリア形成の探究	1前		2			○							兼1
		東北学院史の探究	3前・後		2			○							兼1
		データ活用による探究	2前・後		2			○							兼2
		地域ボランティア活動の探究	1前・後		2			○							兼1
		地域課題の探究	2前・後		2			○							兼1
	課題探究演習	1後		2				○						兼2	
	人文系	哲学	1前・後		2			○							兼1
		芸術論	1前・後		2			○							兼1
文化の歴史		1前・後		2			○							兼1	
音楽		1前・後		2			○							兼1	
倫理学		1前・後		2			○							兼1	
文学		1前・後		2			○							兼1	
歴史学		1前・後		2			○							兼1	
文化人類学		1前・後		2			○							兼1	
言語論		1前・後		2			○							兼1	
社会系		心理学	1前・後		2			○							兼9
	社会学	1前・後		2			○							兼4	
	経営学	1前・後		2			○							兼2	
	経済学	1前・後		2			○							兼4	
	法学	1前・後		2			○							兼1	
	日本国憲法	1前・後		2			○							兼1	
	現代の政治	1前・後		2			○							兼1	
	地理学	1前・後		2			○							兼3	
	社会福祉論	1前・後		2			○							兼4	
	ジェンダー論	1前・後		2			○							兼1	
	東北地域論	1前・後		2			○							兼3	
自然系	数理の科学	1前・後		2			○							兼6	
	記号論理学	1前・後		2			○							兼1	
	生命の科学	1前・後		2			○							兼2	
	環境の科学	1前・後		2			○							兼2	
	自然の科学	1前・後		2			○							兼1	
	先端科学と技術	1前・後		2			○							兼3	
	AI社会の基礎	1前・後		2			○							兼4	
小計（49科目）		—	6	92	0		—			0	0	0	0	0	兼82

教育課程等の概要														
(国際学部国際教養学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
第1類	英語 I A	1前	1			○								兼1
	英語 I B	1後	1			○								兼1
	英語 II A	2前	1			○								兼1
	英語 II B	2後	1			○								兼1
第2類	ドイツ語 I A	1前		2		○								兼1
	フランス語 I A	1前		2		○								兼2
	中国語 I A	1前		2		○								兼1
	韓国・朝鮮語 I A	1前		2		○								兼1
	ドイツ語 I B	1後		2		○								兼1
	フランス語 I B	1後		2		○								兼2
	中国語 I B	1後		2		○								兼1
	韓国・朝鮮語 I B	1後		2		○								兼1
	ドイツ語 II A	2前		1		○								兼1
	フランス語 II A	2前		1		○								兼2
	中国語 II A	2前		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語 II A	2前		1		○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションA	2前		1		○				1				兼1
	フランス語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	中国語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	ドイツ語 II B	2後		1		○								兼1
	フランス語 II B	2後		1		○								兼2
	中国語 II B	2後		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語 II B	2後		1		○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションB	2後		1		○				1				兼2
	フランス語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	中国語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	ドイツ語 III A	3前		1		○								兼1
	フランス語 III A	3前		1		○								兼2
	中国語 III A	3前		1		○								兼1
韓国・朝鮮語 III A	3前		1		○								兼1	
ドイツ語 III B	3後		1		○								兼1	
フランス語 III B	3後		1		○								兼2	
中国語 III B	3後		1		○								兼1	
韓国・朝鮮語 III B	3後		1		○								兼1	
第3類	ベーシック英語	1前			1	○								兼1
	英語コミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	英語 III A	3前		1		○								兼1
	英語 III B	3後		1		○								兼1
小計 (40科目)		—	4	44	1	—			0	1	0	0	0	兼11

教育課程等の概要															
(国際学部国際教養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
保健体育	スポーツ実技A	1前・後		1				○							兼1
	スポーツ実技B	1前・後		1				○							兼1
	体育講義	1前・後		2			○								兼1
	小計(3科目)	—	0	4	0			—	0	0	0	0	0		兼2
留学科目	海外研究A	2通		4			○								兼1 集中
	海外研究B	1後		2			○								兼1 集中
	海外研究C	1後		1			○								兼1 集中
	小計(3科目)	—	0	7	0			—	0	0	0	0	0		兼1
外国人及び 帰国生科目	日本語ⅠA	1前		1			○					1			
	日本語ⅠB	1後		1			○					1			
	日本語ⅡA	2前		1			○								兼1
	日本語ⅡB	2後		1			○								兼1
	小計(4科目)	—	0	4	0			—	0	0	1	0	0		兼1
基幹科目	国際学概説	1前	2				○			7	5	2			オムニバス
	異文化体験演習A(外国人支援)	2前		1				○			1	1			集中
	異文化体験演習B(インターンシップ)	2後		1				○		4					集中
	国際学演習Ⅰ	3前	2					○		6	5	2			
	国際学演習Ⅱ	3後	2					○		6	5	2			
	卒業演習Ⅰ	4前	2					○		6	5	2			
	卒業演習Ⅱ	4後	2					○		6	5	2			
	小計(8科目)	—	12	2	0			—	12	25	10	4	0	0	
専門科目 第1類 専門外国語科目	総合英語ⅠA	1前		2				○		2					
	総合英語ⅠB	1後		2				○		2					
	英語リーディングセミナーA	1前		1				○		1					
	英語リーディングセミナーB	1後		1				○		1					
	英語コミュニケーションセミナー	1前		1				○				1			兼1
	英語ディスカッションセミナー	1後		1				○				1			
	初級中国語A	1前		2				○				1			
	初級中国語B	1後		2				○				1			
	実践中国語ⅠA	1前		1				○							兼1
	実践中国語ⅠB	1後		1				○							兼1
	初級韓国朝鮮語A	1前		2				○				1			
	初級韓国朝鮮語B	1後		2				○				1			
	実践韓国朝鮮語ⅠA	1前		1				○							兼1
	実践韓国朝鮮語ⅠB	1後		1				○							兼1

教育課程等の概要															
(国際学部国際教養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門外国語科目 第2類	総合英語Ⅱ	2前		2				○		1					
	英語ライティングセミナー	2前		1				○		1					
	英語プレゼンテーションセミナー	2後		1				○				1			
	英語で学ぶ時事問題	2後		1				○		1					
	英語で学ぶ日本の社会と文化	2後		1				○		1					
	ビジネス英語	3前		1				○							兼1
	日英翻訳実践	3前		1				○		1					
	英語検定試験研究	3後		1				○		1					
	中級中国語A	2前		2				○							兼1
	中級中国語B	2後		2				○							兼1
	実践中国語ⅡA	2前		1				○							兼1
	実践中国語ⅡB	2後		1				○							兼1
	上級中国語A	3前		1				○							兼1
	上級中国語B	3後		1				○							兼1
	実践中国語ⅢA	3前		1				○			1				
	実践中国語ⅢB	3後		1				○			1				
	中級韓国朝鮮語A	2前		2				○			1				
	中級韓国朝鮮語B	2後		2				○			1				
	実践韓国朝鮮語ⅡA	2前		1				○							兼1
	実践韓国朝鮮語ⅡB	2後		1				○							兼1
	上級韓国朝鮮語A	3前		1				○			1				
	上級韓国朝鮮語B	3後		1				○			1				
	実践韓国朝鮮語ⅢA	3前		1				○		1					
	実践韓国朝鮮語ⅢB	3後		1				○		1					
専門科目 第1類 (言語と多文化共生)	日本語のしくみ	1前		2				○							
	日本語学Ⅰ	1後		2				○			1				
	日本語学Ⅱ	2前		2				○			1				
	異文化コミュニケーション論	2前		2				○				1			
	比較文化論	2前		2				○		1					
	ジェンダーと言語	2前		2				○		1					
	モノと宗教	2後		2				○		1					
	社会言語学	2前		2				○			1				
	共生言語学	2後		2				○				1			
	比較言語論Ⅰ	2後		2				○		1					
	比較言語論Ⅱ	3前		2				○			1				
	言語習得論	3前		2				○		1					
	言語政策論	3後		2				○				1			
	言語とテクノロジー	3後		2				○							兼1
	Topics in Japanese Linguistics	2後		2				○		1					
	Topics in Japanese Culture	3前		2				○		1					
	World Englishes	3前		2				○				1			
	World Religions	3後		2				○		1					
Popular Culture Studies	3後		2				○		1						
Understanding Multiculturalism	3後		2				○			1					

教育課程等の概要															
（国際学部国際教養学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
第2類 （東アジア研究）	中国語圏の言語と文化	2前		2		○				1				兼1 兼1	
	中国語圏文化論	2後		2		○				1					
	近現代中国の歴史と社会	2前		2		○									
	現代中国の諸問題	2後		2		○									
	東西文明交流Ⅰ	2前		2		○				1					
	東西文明交流Ⅱ	2後		2		○				1					
	朝鮮半島の文化と歴史Ⅰ	2前		2		○			1						
	朝鮮半島の文化と歴史Ⅱ	2後		2		○			1						
	東アジアと植民地支配	2前		2		○			1						
	越境と移民	2後		2		○			1						
	現代韓国の諸問題	3前		2		○			1						
	社会的マイノリティと差別	3後		2		○			1						
	China in Global Context	3前		2		○				1					
	Two Koreas in Global Context	3前		2		○			1						
	Contemporary Korean Culture	3後		2		○			1						
	Japan in Global Context	3後		2		○				1					
	第3類 （グローバルスタディーズ）	グローバル政治論Ⅰ	2前		2		○			1					兼1 兼1
		グローバル政治論Ⅱ	2後		2		○			1					
		ナショナリズム論	2前		2		○			1					
		グローバリズムとナショナリズム	2後		2		○			1					
会計の世界史		2前		2		○			1						
震災とリスクマネジメント		2後		2		○			1						
グローバル経済Ⅰ		2前		2		○									
グローバル経済Ⅱ		2後		2		○									
開発と政治		3前		2		○			1						
平和論		3前		2		○			1						
グローバル・トピックス		2前		2		○			1						
グローバルビジネスと会計情報Ⅰ		3前		2		○			1						
グローバルビジネスと会計情報Ⅱ		3後		2		○			1						
International RelationsⅠ		2前		2		○				1					
International RelationsⅡ		2後		2		○				1					
Understanding Global SocietyⅠ		3前		2		○				1					
Understanding Global SocietyⅡ		3後		2		○				1					
Global Business Case StudiesⅠ		3前		2		○			1						
Global Business Case StudiesⅡ		3後		2		○			1						
Contemporary Political Issues		3後		2		○			1						
小計（101科目）	—	10	163	0	—			7	5	2	0	0	兼8	—	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際学部国際教養学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
資格関係科目	日本語教育学概論Ⅰ	1後		2		○					1					
	日本語教育学概論Ⅱ	2前		2		○					1					
	日本語教授法	2後		2		○				1						
	日本語教育文法論	3前		2		○					1					
	日本語教育学特論Ⅰ	3前		2		○				1						
	日本語教育学特論Ⅱ	3後		2		○				1						
	日本語教育実習法Ⅰ	3前		2			○				1					
	日本語教育実習法Ⅱ	3後		2			○				1					
	日本語教育実習Ⅰ	4前		2				○			1			集中		
	日本語教育実習Ⅱ	4後		2				○			1			集中		
	小計（10科目）		—	0	20	0	—	—	—	—	0	1	1	0	0	0
合計（210科目）		—	20	334	1	—	—	—	—	7	5	2	0	0	兼99	—
学位又は称号		学士（国際学）			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>教養教育科目から34単位、外国語科目から4単位、専門科目から64単位、その他選択科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。</p> <p>なお、教養教育科目の選択科目のうち、TGベーシック区分の「キリスト教学A」、「キリスト教学B」、「キリスト教学C」、「キリスト教学D」から2単位選択必修、「共生社会と倫理」、「科学技術社会と倫理」から2単位選択必修、「よき社会生活のためにA（法律）」、「よき社会生活のためにB（福祉）」、「よき社会生活のためにC（健康）」から2単位選択必修、「リーディング&ライティング」、「クリティカル・シンキング」から2単位選択必修、「統計的思考の基礎」、「科学的思考の基礎」から2単位選択必修、課題探究区分から6単位選択必修、共通教養科目区分の人文系区分から4単位選択必修、社会系区分から4単位選択必修、自然系区分から4単位選択必修とする。</p> <p>専門科目の選択科目においては、専門外国語科目の第1類から6単位選択必修、第2類から8単位選択必修とする。また第1類（言語と多文化共生）から4単位選択必修、第2類（東アジア研究）から4単位選択必修、第3類（グローバルスタディーズ）から4単位選択必修とし、かつ第1類から第3類の合計が40単位以上になるよう選択して修得する。</p> <p>【履修登録上の制限】 1年間に履修登録できる単位数の上限は、第1学年次から第3学年次を40単位、第4学年次を46単位とする。ただし、資格科目については上限を超えて履修することができる。</p>							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要															
(文学部英文学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人間的基礎	聖書を学ぶ	1前	2			○								兼2
		キリスト教の歴史と思想	1後	2			○								兼2
		キリスト教学A(キリスト教と倫理)	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学B(キリスト教と宗教)	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学C(キリスト教と文化)	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学D(キリスト教と現代社会)	3前・後		2			○							兼1
		市民社会を生きる	1前・後		2			○							兼8
		地球社会を生きる	2前・後		2			○							兼7
		科学技術社会を生きる	2前・後		2			○							兼4
		キャリア形成と大学生活	1前・後		2			○							兼3
	知的基礎	クリティカル・シンキング	3前・後		2			○			1	1			
		教理的思考の基礎	1前・後		2			○							兼6
		統計的思考の基礎	1前・後		2			○							兼8
		科学的思考の基礎	1前・後		2			○							兼9
		情報化社会の基礎	1前・後		2			○							兼6
		メディア・リテラシー	1前・後		2			○							兼6
		読解・作文の技法	1前・後		2			○			1				兼2
		研究・発表の技法	2前・後		2			○							兼1
	学科教養科目	哲学	1前・後		2			○							兼4
		文学	1前・後		2			○			1				兼4
		芸術論	2前・後		2			○							兼4
		歴史学	1前・後		2			○							兼8
		心理学	1前・後		2			○							兼7
		文化人類学	1前・後		2			○							兼4
		社会学	1前・後		2			○							兼8
		経済学	1前・後		2			○							兼3
		法学	2前・後		2			○							兼3
		現代の政治	1前・後		2			○							兼4
		日本国憲法	1前・後		2			○							兼3
		生命の科学	1前・後		2			○							兼2
		環境の科学	1前・後		2			○							兼5
		自然の科学	2前・後		2			○							兼4
		倫理学	1前・後		2			○							兼2
		社会福祉論	2前・後		2			○							兼2
		東北地域論	2前・後		2			○							兼5
		先端の科学と技術	2前・後		2			○							兼4
	情報リテラシー	2前・後		2			○							兼2	
	東北学院の歴史	3後		2			○							兼1	
小計(38科目)	—		4	72	0		—		3	1	0	0	0	兼122	
地域教育科目	震災と復興	1前・後		2			○							兼1	
	地域の課題Ⅰ	2前		2			○							兼4	
	地域の課題Ⅱ	2後		2			○							兼4	
	地域課題演習	3通		4				○						兼2	
	小計(4科目)	—		2	8	0		—		0	0	0	0	兼4	
外国語科目	第1類	英語ⅠA	1前	1			○			1				兼5	
		英語ⅠB	1後	1			○			1				兼5	
		英語ⅡA	2前	1			○				1			兼5	
		英語ⅡB	2後	1			○				1			兼5	

教育課程等の概要																
(文学部英文学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目	第2類	ドイツ語ⅠA	1前	1		○									兼3	
		フランス語ⅠA	1前	1		○									兼3	
		ドイツ語ⅠB	1後	1		○									兼3	
		フランス語ⅠB	1後	1		○									兼3	
		中国語ⅠA	1前	1		○									兼5	
		中国語ⅠB	1後	1		○									兼5	
		韓国・朝鮮語ⅠA	1前	1		○									兼1	
		韓国・朝鮮語ⅠB	1後	1		○									兼1	
		ドイツ語ⅡA	2前	1		○										兼1
		ドイツ語ⅡB	2後	1		○										兼1
		フランス語ⅡA	2前	1		○										兼2
		フランス語ⅡB	2後	1		○										兼2
		中国語ⅡA	2前	1		○										兼1
		中国語ⅡB	2後	1		○										兼1
		韓国語・朝鮮語ⅡA	2前	1		○										兼1
		韓国語・朝鮮語ⅡB	2後	1		○										兼1
		第3類	ベーシック英語	1前			1	○								兼1
英語Ⅲ	3前・後				1	○								兼1		
小計(22科目)	—		4	16	2	—			1	1	0	0	0	兼23		
保健体育科目	体育講義	1前・後		2		○								兼3		
	スポーツ実技	1通		2				○						兼13		
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼13		
外国人留学生科目	第1類	日本事情A	1前		2	○									兼1	
		日本事情B	1後		2	○									兼1	
		日本事情C	1前		2	○									兼1	
	第2類	日本語ⅠA	1前・後		1		○								兼1	
		日本語ⅠB	1前・後		1		○								兼1	
		日本語ⅡA	2前・後		1		○								兼1	
		日本語ⅡB	2前・後		1		○								兼1	
小計(7科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5			
専門教育科目	第1類	Integrated English I	1前・後		2	○									兼6	
		Integrated English II	1前・後		2	○									兼6	
		Integrated English III	2前・後		2	○									兼3	
		Integrated English IV	2前・後		2	○									兼3	
		Integrated English V	3前・後		2	○									兼2	
		Integrated English VI	3前・後		2	○									兼2	
		Academic Writing I	2前・後		2	○									兼4	
		Academic Writing II	2前・後		2	○									兼4	
		Academic Writing III	3前・後		2	○				1					兼4	
		Academic Writing IV	3前・後		2	○				1					兼4	
		Academic Presentation I	4前・後		2	○					1				兼1	
		Academic Presentation II	4前・後		2	○					1				兼1	
		英語発音学Ⅰ	1前・後	2			○			1						
		英語発音学Ⅱ	1前・後	2			○			1						
		英文法Ⅰ	3前・後		2		○			1						
英文法Ⅱ	3前・後		2		○			1								

教育課程等の概要																
(文学部英文学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	第2類 (英米文学分野)	英米文学概説Ⅰ	1前・後	2			○			1					兼1	
		英米文学概説Ⅱ	1前・後	2			○			1						
		イギリス文学史Ⅰ	2前・後		2			○			1					
		イギリス文学史Ⅱ	2前・後		2			○			1					
		イギリス小説Ⅰ	3前・後		2			○			1					
		イギリス詩Ⅰ	3前・後		2			○			1					
		英米文学講読Ⅰ	2前・後	2				○			2					
		英米文学講読Ⅱ	2前・後	2				○			1	1				
		イギリス小説Ⅱ	3前・後		2			○			1					
		イギリス詩Ⅱ	3前・後		2			○								
		イギリス演劇Ⅰ	3前・後		2			○			1					
		イギリス演劇Ⅱ	3前・後		2			○			1					
		アメリカ文学史Ⅰ	2前・後		2			○				1				
		アメリカ文学史Ⅱ	2前・後		2			○				1				
		アメリカ小説Ⅰ	3前・後		2			○				1				
		アメリカ小説Ⅱ	3前・後		2			○				1				
		アメリカ詩	3前・後		2			○				1				
		アメリカ演劇	3前・後		2			○				1				
		英米文学演習Ⅰ	3前・後	2					○		3	2				
		英米文学演習Ⅱ	3前・後	2					○		3	2				
	中世イギリス文学Ⅰ	4前・後		2			○									
	中世イギリス文学Ⅱ	4前・後		2			○									
	文学批評Ⅰ	4前・後		2			○			1						
	文学批評Ⅱ	4前・後		2			○			1						
	英米文学演習Ⅲ	4前・後	2					○		3	2					
	英米文学演習Ⅳ	4前・後	2					○		3	2					
	第3類 (英語学分野)	英語学概説Ⅰ	1前・後	2			○			1					兼1 兼1	
		英語学概説Ⅱ	1前・後	2			○			1						
		英語音韻論Ⅰ	2前・後		2		○			1						
		英語音韻論Ⅱ	2前・後		2		○			1						
		英語統語論Ⅰ	2前・後		2		○			1						
		英語統語論Ⅱ	2前・後		2		○			1						
英語学講読Ⅰ		2前・後	2			○			1							
英語学講読Ⅱ		2前・後	2			○			1							
音韻論Ⅰ		3前・後		2		○			1							
音韻論Ⅱ		3前・後		2		○			1							
文法論Ⅰ		3前・後		2		○			1							
文法論Ⅱ		3前・後		2		○			1							
英語史Ⅰ		3前・後		2		○			1							
英語史Ⅱ		3前・後		2		○			1							
初期英語Ⅰ		2前・後		2		○			1							
初期英語Ⅱ		2前・後		2		○			1							
英語学演習Ⅰ		3前・後	2					○		4						
英語学演習Ⅱ		3前・後	2					○		4						
言語学Ⅰ		4前・後		2		○			1							
言語学Ⅱ		4前・後		2		○			1							
歴史言語学Ⅰ		4前・後		2		○			1							
歴史言語学Ⅱ		4前・後		2		○			1							
英語学演習Ⅲ	4前・後	2					○		4							
英語学演習Ⅳ	4前・後	2					○		4							

教育課程等の概要															
(文学部英文学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
第4類 (英語コミュニケーション分野)	英語コミュニケーション概説Ⅰ	1前・後	2			○									
	英語コミュニケーション概説Ⅱ	1前・後	2			○			1						
	異文化間コミュニケーション学Ⅰ	2前・後		2		○								兼1	
	異文化間コミュニケーション学Ⅱ	2前・後		2		○								兼1	
	英語コミュニケーション講読Ⅰ	2前・後	2			○			1						
	英語コミュニケーション講読Ⅱ	2前・後	2			○				1					
	社会言語学Ⅰ	3前・後		2		○				1					
	社会言語学Ⅱ	3前・後		2		○				1					
	応用言語学Ⅰ	3前・後		2		○			1						
	応用言語学Ⅱ	3前・後		2		○			1						
	心理言語学Ⅰ	2前・後		2		○			1					兼1	
	心理言語学Ⅱ	2前・後		2		○			1					兼1	
	英語コミュニケーション演習Ⅰ	3前・後	2			○			3	1					
	英語コミュニケーション演習Ⅱ	3前・後	2			○			3	1					
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	4前・後		2		○				1					
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	4前・後		2		○				1					
	英語コミュニケーション演習Ⅲ	4前・後	2					○	3	1					
	英語コミュニケーション演習Ⅳ	4前・後	2					○	3	1					
	第5類	ギリシア語初級Ⅰ	2前・後		2		○								兼1
		ギリシア語初級Ⅱ	2前・後		2		○								兼1
ドイツ語講読Ⅰ		3前・後		2		○								兼1	
ドイツ語講読Ⅱ		3前・後		2		○								兼1	
フランス語講読Ⅰ		3前・後		2		○								兼1	
フランス語講読Ⅱ		3前・後		2		○								兼1	
ギリシア語中級Ⅰ		3前・後		2		○								兼1	
ギリシア語中級Ⅱ		3前・後		2		○								兼1	
ラテン語初級Ⅰ		3前・後		2		○								兼1	
ラテン語初級Ⅱ		3前・後		2		○								兼1	
ラテン語中級Ⅰ		4前・後		2		○								兼1	
ラテン語中級Ⅱ		4前・後		2		○								兼1	
第6類	国際関係論Ⅰ	3前・後		2		○								兼1	
	国際関係論Ⅱ	3前・後		2		○								兼1	
	英米思想史Ⅰ	3前・後		2		○								兼1	
	英米思想史Ⅱ	3前・後		2		○								兼1	
	キリスト教文学Ⅰ	3前・後		2		○				1					
	キリスト教文学Ⅱ	3前・後		2		○			1						
	小学校英語教育実践Ⅰ	4前・後		2		○								兼1	
	小学校英語教育実践Ⅱ	4前・後		2		○								兼1	
	翻訳実践Ⅰ	4前・後		2		○				1					
	翻訳実践Ⅱ	4前・後		2		○				1					
	通訳実践Ⅰ	4前・後		2		○								兼1	
	通訳実践Ⅱ	4前・後		2		○								兼1	
海外研究Ⅰ	2前・後		2		○				1						
海外研究Ⅱ	2前・後		2		○				1				集中 集中※実習		
第7類	卒業試験	4前・後		2				○	8	3					
	卒業論文	4前・後		2				○	8	3					
	小計(112科目)	—	52	172	0	—			8	3	0	0	0	兼26	

教育課程等の概要															
(文学部英文学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職等に関する科目	現代教職論	1前・後		2		○									兼1
	教育基礎論	1前		2		○									兼1
	教育の制度と経営	1後		2		○									兼1
	教育心理学	2前・後		2		○									兼3
	教育課程論	2前		2		○									兼1
	道德教育の理論と方法	2前・後		2		○									兼2
	教育の方法と技術	2前・後		2		○									兼1
	教育相談の理論と方法	2前・後		2		○									兼2
	生徒指導・進路指導の理論と方法	2前・後		2		○									兼4
	英語科教育法(概論)	2後		2		○			1						
	英語科教育法(理論)	3前		2		○			1						
	英語科教育法(実践)	3後		2		○			1						
	英語科教育法(応用)	3後		2		○									兼1
	特別支援教育論	3前・後		2		○									兼1
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	3前・後		2		○									兼3
	介護体験実習	3通		2				○							兼3
	教育実習Ⅰ	4通		3				○	1						集中
	教育実習Ⅱ	4通		2				○	1						集中
	教職実践演習(中・高)	4後		2			○								兼8
小計(19科目)	—		0	39	0	—		1	0	0	0	0	0	兼22	—
学芸員に関する科目	博物館概論	1前・後		2		○									兼1
	博物館教育論	1前・後		2		○									兼1
	生涯学習概論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	生涯学習概論Ⅱ	2後		2		○									兼1
	博物館経営論	2前・後		2		○									兼1
	博物館資料論	2前・後		2		○									兼1
	日本文学史Ⅰ	2前		2		○									兼1
	日本文学史Ⅱ	2後		2		○									兼1
	考古学概説Ⅰ	2前		2		○									兼1
	考古学概説Ⅱ	2後		2		○									兼1
	民俗学概説Ⅰ	2前		2		○									兼1
	民俗学概説Ⅱ	2後		2		○									兼1
	博物館資料保存論	3前・後		2		○									兼1
	博物館展示論	3前・後		2		○									兼1
	博物館情報・メディア論	3前・後		2		○									兼1
	博物館実習Ⅰ(学内実習)	3通		1				○							兼1
	博物館実習Ⅱ(見学実習)	3通		1				○							兼2
	博物館実習Ⅲ(館園実習)	3通		1				○							兼2
	日本思想史Ⅰ	3前		2		○									兼1
	日本思想史Ⅱ	3後		2		○									兼1
	生活文化史Ⅰ	3前		2		○									兼1
	生活文化史Ⅱ	3後		2		○									兼1
	日本美術史	3前・後		2		○									兼1
	ヨーロッパ美術史	3前・後		2		○									兼1
小計(24科目)	—		0	45	0	—		0	0	0	0	0	0	兼17	—

教育課程等の概要														
(文学部英文学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
司書に関する科目	図書館概論	2前・後		2		○								兼1
	図書館情報技術論	3前・後		2		○								兼1
	図書館サービス概論	3前・後		2		○								兼1
	図書館情報資源概論	3前・後		2		○								兼1
	情報資源組織論	3前・後		2		○								兼1
	図書・図書館史	3前・後		2		○								兼1
	図書館制度・経営論	4前・後		2		○								兼1
	情報サービス論	4前・後		2		○								兼1
	情報サービス演習A	4前・後		1			○							兼1
	情報サービス演習B	4前・後		1			○	○						兼1
	情報資源組織演習	4通		2			○	○						兼1
	図書館情報資源特論	4前・後		1		○								兼1
	図書館施設論	4前・後		1		○								兼1
小計（13科目）	—	0	22	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1
司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	3前・後		2		○								兼1
	学校図書館メディアの構成	3前・後		2		○								兼1
	学習指導と学校図書館	3前・後		2		○								兼1
	読書と豊かな人間性	3前・後		2		○								兼1
	情報メディアの活用	3前・後		2		○								兼1
小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4
社会教育主事に関する科目	市民活動論	1前・後		2		○								兼1
	ボランティア活動	2前・後		2		※		○						兼8 ※講義 オムニバス・共同（一部）
	スポーツ指導論	2前・後		2		○								兼1
	地域構想論	2前・後		2		○								兼3 オムニバス
	地域スポーツ論	2前・後		2		○								兼3 オムニバス
	スポーツマネジメント	3前・後		2		○								兼1
	生涯学習支援論	3通		4		○								兼2
	社会教育実習Ⅰ	3前		1				○						兼1 集中
	社会教育実習Ⅱ	3後		1				○						兼1 集中
	社会教育課題研究	3通		4			○							兼1
	教育調査実習A	3前・後		2				○	○					兼1
	教育調査実習B	3前・後		2				○	○					兼1
	現代社会と社会教育	3前・後		2		○								兼3
	市民性育成の教育論	3前・後		2		○								兼1
	地域教育論	3前・後		2		○								兼1
	地域文化論	3前・後		2		○								兼1
	地域社会論	3前・後		2		○								兼1
社会教育経営論	4通		4		○								兼2	
小計（18科目）	—	0	40	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼20
合計（264科目）	—	62	438	2	—	—	—	—	8	3	0	0	0	兼230
学位又は称号	学士（文学）			学位又は学科の分野				文学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
教養教育科目34単位、地域教育科目2単位、外国語科目6単位、専門教育科目62単位、その他選択科目20単位以上を修得し、計124単位以上修得すること。 【履修登録上の制限（東北学院大学文学部履修細則）】 第10条 1年間に履修登録できる単位数の上限は、第1学年次から第3学年次を40単位、第4学年次を46単位とする。ただし、外国語科目第3類並びに資格科目については、上限を超えて履修することができる。 2 前項の規定にかかわらず、編入学生、転学部・転学科生等は、必要な指導を経たうえで、46単位まで履修登録をすることができる。 3 第1項の規定にかかわらず、第2学年次又は第3学年次の学生は履修登録をする前年度の年間GPAが3.0以上の場合は、44単位まで履修登録をすることができる。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベーシック 人間的基礎	聖書を学ぶ	本授業は、旧新約聖書の構成と内容の概略を学ぶことを目指している。聖書が書かれた歴史的背景とその思想を正確に捉え、聖書の成立事情及び各文書の文学上の性格を理解する。聖書のメッセージを理解して、それを正しく受け取ることにより、よく生きようとする態度を学ぶ。本授業においては、(1)聖書の内容に親しみ、聖書の箇所を正しく開くことができる、(2)聖書の基本的内容(メッセージ)を理解し説明できる、ことを目標とする。	
	キリスト教の歴史と思想	本授業は、キリスト教の歴史の概略を学び、キリスト教の基本的な考え方、その思想を学ぶことを目指している。キリスト教史における様々な歴史的出来事を学び、その意義を正確に捉えるだけでなく、キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方から学ぶことを通して、よく生きようとする態度を身に付ける。本授業では、(1)キリスト教の歴史を理解し、説明できる、(2)キリスト教の基本的な考え方を理解し、説明できる、(3)キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方を理解し説明できる、ことを目標とする。	
	キリスト教学A	新約聖書、とりわけイエスとパウロに関する伝承を読み取ることを通して、その言葉と行いを理解するとともに、比較宗教学の手法を援用することで日本の古典(古事記)やギリシャ神話との比較を行いつつ、それらキリスト教を含む古代の諸宗教の教説が、どのような歴史的変遷を経て現代社会の様々な諸問題、とりわけ倫理観やジェンダー理解に影響を与えているかを考察する。本授業では、(1)聖書を正確に読み取り、キリスト教に関する基礎的知識を身に付けること、(2)現代社会の様々な問題、とりわけ倫理的な問題を、聖書や他の諸宗教神話などの視点を通して歴史的に考察することができること、を目標とする。	
	キリスト教学B	「スピリチャリティ(霊性)」という言葉、最近頻繁に聞く。ユダヤ・キリスト教では、目には見えなく、また理性では理解できない、いわゆる「スピリチュアル(霊的)」な存在や出来事を重んじる伝統があり、それは日本における諸宗教も同じである。本授業ではユダヤ・キリスト教と日本の霊性を詳しく検討し、両者の相違点や類似性を明らかにし、諸宗教の霊性の内実を確かめたい。同時に、現代世界における「スピリチャリティ」の意義も考えたい。授業では映画などの様々な視聴覚教材を用いて、分かりやすく説明することに努める。本授業では、(1)諸宗教における「スピリチャリティ」の歴史的意義を理解し、ユダヤ・キリスト教と日本の宗教を様々な視点から捉え直すことができる、(2)「スピリチャリティ」の価値と同時にその危険性も合わせ考察することができる、(3)「キリスト教学A」で学んだキリスト教に関する基礎的知識を本授業によってさらに肉付けし、西洋社会と文化の基盤を築くキリスト教の知識を自分のものにすることができる、ことを目標とする。	
	キリスト教学C	なぜ日本でキリスト教が広まらないのか。本授業ではこの問い掛けを中心に置きながら、キリスト教と日本の文化の関わりについて考える。ユダヤ・キリスト教と日本の文化を詳しく検討し、両者の相違点や類似性を明らかにする。本授業では、(1)日本におけるキリスト教の歴史について説明できる、(2)日本人の宗教観やその宗教的特性について理解する、(3)日本の文化的背景とキリスト教の関係について自分の言葉で説明できる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベーシック 人間的基礎	キリスト教学D	現代に生きる私たちに、聖書が何を伝えようとしているのかを理解することが本授業の目的である。平和とは何か、平等とは何か、格差をどのように乗り越えるべきか、など私たちが抱く問いに聖書がどのように答えているか参加者が理解できるようにする。本授業ではイエスとパウロに関する伝承を読み取ることを通して、その言葉と行いを理解し、現代社会の様々な諸問題を彼らの視点を通して考えたい。授業では映画などの様々な視聴覚教材を用いて、分かりやすく説明することに努める。本授業では、(1)聖書を正確に読み取り、キリスト教に関する基礎的知識を自分のものにすることができる、(2)本授業を通して、現代社会の様々な問題を聖書の視点を通して考察することができる、(3)本授業を通して聖書に関して共感する点、また受け入れがたい点を自分の言葉で正確に説明することができる、ことを目標とする。	
	共生社会と倫理	本授業は、経済のグローバル化に伴い急速に到来した共生社会とは何か、を地域社会の持続的発展との関係という視点から考察することをテーマとする。前半ではグローバル化の進展を検討しながらその特徴を明らかにしたうえで、共生社会の基礎である価値観・倫理観との関連性について明白にする。後半では地域社会の特性を活かす共生社会の仕組みやあり方を検討する。そして共生社会を生きていくためにグローバル化との関わりや社会の多様性と格差是正・持続的発展・地域社会との両立など諸問題を理解する力を養成する。本授業では、共生社会の意味とその特徴を理解できるようになることを目標とする。なお、本授業は講義形式で行う。	
	科学技術社会と倫理	本授業のテーマは現代社会と科学技術の関わり及びその活用における倫理的側面について理解し、考えることである。産業革命から始まり、発展してきた科学技術は我々の生活を便利にかつ豊かにしてきた。機械技術は高速大量の輸送や大量生産を可能にし、電気電子技術は便利なエネルギーの供給、通信や機器の高度化で現代の情報化社会を支え、土木建築技術で生活環境が拡がり、快適になった。その一方で、エネルギー消費や公害などの諸問題、不適切な運用などの負の側面、倫理的課題もまた併せて考える必要がある。本授業においては、社会を支える科学技術を理解し、それとの関わり方について正しい判断ができるようになることを目標とする。	
	よき社会生活のためにA (法律)	本授業のテーマは、大学生が社会生活を送るにあたり求められる重要な法的知識を、具体的な事例を用いて習得することである。本授業においては、具体的な法的問題や身近な法的トラブルを素材にして、解決策を検討する。これらの課題解決を考える過程において、大学生が社会生活を送るうえで必要となる法的知識や法的な考え方を講義形式で解説する。また一方的な講義のみならず、一部アクティブ・ラーニングの方式も取り入れ、法に関する考え方をさらに深めるようにする。したがって本授業においては、受講生が、社会において法が果たしている役割を理解できるとともに、法的問題を自らの力で考えることができることを達成目標とする。	
	よき社会生活のためにB (福祉)	近年、個人の生き方が多様化する中、一人一人の生き方に合ったお金の知識や活用方法を身に付け、家計の適切な管理や合理的な生活設計を立てることが必要不可欠となっている。本授業を通じて、受講生には自立した市民として「よき社会生活」を送ることができるよう、ライフステージ別に個人が身に付けるべき様々な知識を学ぶ。主な講義内容としては、長期的視点に立った生活設計の手法、年金制度・健康保険・雇用保険などの社会保障制度に関する基礎知識などが挙げられる。本授業の到達目標は、今後経験するであろう様々なライフイベント（就職・結婚・子育て・教育・退職など）に対して、受講生それぞれにとって最適な対応策（例えば教育においては学資保険の活用）を講じることができるようになること、である。なお本授業は講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 TGベリック	人間的基礎 よき社会生活のためにC (健康)	本授業は、知的活動や文化創造活動など人間行動の基盤となる心身の健康について学ぶ。身体の健康と心の健康について前後半に分けて各専門の教員が講義を行う。本授業では、(1)現代社会における健康の諸問題について広く関心を持つ、(2)心身の健康について、重要な知見や実践的提言を理解し説明できる、(3)獲得した知識を基に、自発的、積極的に健康行動に移す態度を持っている、ことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (71 岡崎 勘造・72 金井 嘉宏/1回) (共同) ガイダンス (71 岡崎 勘造/7回) 「身体の健康」に関する授業では、肥満、社会、ライフステージなどと運動の関係を講義する。 (72 金井 嘉宏/7回) 「心の健康」に関する授業では、ストレス、うつ病、人間関係、生活習慣など健康との関係を取り上げ講義する。	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	リーディング&ライティング	大学での学修に必要な読解力・作文力の修得を目的とした入門科目である。読解力(リーディングスキル)には、文献の検索・入手、文章の要約、文章の構造的な理解等を含む。作文力(ライティングスキル)には、基本的な文体・文章の表現、パラグラフの構成、レポート全体の構成等を含む。実際に文献を検索、読解し、文章を書き、互いに批評し合いながら、読解力及び文章力の向上を目指す。本授業においては、(1)基本的な読解力を身に付け、専門書を読むことができること、(2)論理的な文章、レポートを書くことができることを目標とする。	
	知的基礎 クリティカル・シンキング	「クリティカル・シンキング」(批判的思考)とは、物事を論理的・分析的に捉える際に働く思考のことである。具体的なテーマを取り上げて討論に取り組み、その結果を交流する。討論を通して他者の論理・主張・根拠を読み解き、評価する、論理の整合性や因果関係を捉える、自分の推論プロセスを意識的に吟味する等のトレーニングを行う。本授業においては、(1)他者の意見や文章に対して批判的思考を活かし、論理的に評価することができること、(2)自身の考えを批判的に捉え、明確な根拠を持って意思決定したり、論理的な文章を作成できること、を目標とする。	
	知的基礎 情報リテラシー	本授業では、自身のコンピュータを安全に活用するために必要となる基本的なセキュリティ、インターネットを活用するために必要となる基礎知識やマナー、これからの学習活動に必要なデータ活用方法などを事務支援ツール(文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト)を用いながら実践的に学修していく。本授業の到達目標は、次のとおりとなる。(1)自身のコンピュータでは、脅威への対策を講じることができるようになる、(2)電子メールなどのコミュニケーション手段を正しく利用できる、(3)危険性や妥当性に配慮しながら、インターネット上のデータを事務支援ツールを使って実際に活用することができる、こととする。	
知的基礎 統計的思考の基礎	この授業のテーマは「統計情報を正しく読み解く」である。私たちが様々な場面で目にする「統計」や「データ」には、正しいものもあれば間違っただけのものもある。また、統計数値やデータが正しくても、その意味を間違えて理解・説明してしまうことも珍しくない。この授業では、統計とデータに関する基礎的な知識の解説を講義形式で行う。本授業においては、(1)統計数値やグラフなどの情報を読み取り、その内容を正しく理解・説明することができる、(2)統計リテラシー及び社会調査リテラシーの基礎知識を理解することができる、(3)「証拠に基づく議論」の重要性を理解し、それを実践することができる、の3点を目標とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 TG ベーシック 課題探究	科学的思考の基礎	“科学的に考える”とは“科学の知識を身に付ける”ことではない。様々な情報に基づいて、よりよい生き方、よりよい行動が取れるように考えることを意味する。何気ない日常のことも、実は“科学的思考”と密接に関わっている。本授業では、論理や数字、グラフの見方や考え方、よりよい仮説を求める思考法などを通して、日々目にする様々な情報を正しく評価・判断する力を身に付ける。本授業では、(1)「科学的思考」を理解するとともに考えるための道具を身に付け用いることができる、(2)世の中の様々な発言や文章を批判的に捉え、「科学的」に判断することができる、(3)日常の様々な場面において「科学的」に判断し、行動することができる、ことを目標とする。	
	キャリア形成の探究	今後の大学生活において自らのキャリアを考える重要性を理解することがテーマである。キャリアとは人それぞれの勉学、仕事、生活の全てであり人生そのものである。これからの自分自身のキャリアを見つめ、アクティブラーニングを通じて様々な角度から自分と社会を探究する。本授業は、(1)自分自身の理解を深め大学生活における行動目標を立てることができる。(2)コミュニケーションの取り方の基本を学び実践できる。(3)社会や仕事、働き方に対する理解を深め、これからの人生について考えることができる。(4)自ら考え行動する力を身に付け実践できるようになる。以上4点を達成目標とし、大学生活を有意義に過ごすことができるスキルとスタンスを学ぶ授業である。	
	東北学院史の探究	本授業では、創設期である明治期から平成・令和期までの東北学院の歴史について、単なる学校史を超えて、学都仙台の形成と東北学院の発展がどのように関わってきたのか、総力戦体制下や戦後高度経済成長期における東北学院のあゆみ、といった社会情勢と時代背景との関わりを十分に踏まえて、自校史に関わる様々な論点を整理、分析する手法を体得していく。具体的には『東北学院の歴史』及び『東北学院百年史』をテキストとしながら、グループワークを主体とする課題探究型講義としていく。本授業では、(1)東北学院が地域社会の発展に果たしてきた役割について説明することができる、(2)「東北学院の歴史」探究を通じて、近現代日本の様々な事例について客観的かつ多角的な視点から自分の意見を述べるができる、ことを目標とする。	
	データ活用による探究	本授業では、各種行政機関や民間企業が公開するデータを中心に、実践的なデータ分析の手法・レポート作成法などについて学習する。Officeツールに加え、プログラミング言語Pythonや統計解析用言語Rを用いた基礎的な技術を初歩から学び、データ収集、データ形式の変換のためのプログラムの作成や、データ管理のためのデータベース利用などについて取り上げる。データ分析のための環境基盤を利用して集めたデータを様々なアプローチで分析し、課題発見や解決策法を見出す技術を養う。本授業では、データの多様な可視化などの技法を扱えるようになり、加えてデータの価値を高めるデータハンドリングについて理解・説明できるようになることを目標とする。	
	地域ボランティア活動の探究	現代社会において「ボランティア活動」という言葉の概念や対象は大きく拡大し、多種多様な実践が展開されている。本授業では、ボランティアの発展史、基礎理論、マネジメント方法などに関して、地域での具体的事例の検討やボランティア実践を取り入れながら学修を進め、地域においてボランティア活動が果たす役割の理解を深める。本授業においては、(1)ボランティア活動に関するその発展史と基礎理論を、自分の言葉で説明することができる、(2)地域におけるボランティアの役割と必要性を理解し、自分の言葉で説明することができる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際学部国際教養学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
T G ベ ー シ ック	地域課題の探究	「地域」は、特定の空間領域を指し示すだけではなく、歴史・文化や経済などが織り込まれた複雑なシステムである。本授業では、地域社会や地域企業が抱える課題を発見し、その背景となる事象を科学的に理解したうえで主体的な学修によって解決策の提案に繋げていく。本授業においては、(1)地域課題を根拠に基づいて理解し、他者に説明することができる、(2)地域の将来像と課題解決策を示し、他者に説明することができる、(3)課題解決策と大学における自身の学修との関係性を理解し、他者に説明することができる、ことを目標とする。		
	課題探究演習	本授業では、複数の教員がそれぞれテーマを設定して、各25人を上限としたクラスで、学生自らが学び、学生間での質疑などを通じて、設定されたテーマに対する理解を深めていく。テーマとしては、スポーツ、生活文化、言語論、社会問題などの分野を予定している。本授業では、(1)興味関心のある内容に関連する文献を選定することができる、(2)文献の内容を理解し簡潔に要約することができる、(3)要約した内容を他の受講生に分かりやすく説明することができる、(4)これらのことを通じて自らの新たな研究テーマを見出すことができる、ことを到達目標とする。		
教養教育科目	共通教養科目 人文系	哲学	人間が単なる生物であることをやめ、世界における自分の立ち位置に関心を寄せる特別な存在になってからというもの、万物の根本原理や倫理的に正しい生き方といったテーマは、人間が人間であるために欠かすことのできない中心的な主題となってきた。本授業では、古代から現代に至る様々な題材を基に、こういった事柄を問う学問である「哲学」を概観する。本授業においては、(1)哲学的な問いの立て方に親しむ、(2)哲学史上の重要人物や著作に関する知識を身に付ける、(3)複雑な議論の道筋を追うことができる、(4)身近な事柄を哲学的に捉え直し、自らの問題意識を哲学的に表現することができる、ことを目標とする。	
		芸術論	本授業では、あらゆる時代の様々な物を表現する芸術作品を、確かな目で「見る」ための方法を学び、技術を培う。そのうえで、芸術作品と対峙し、歴史の中でそれを「見る」ことそのものについて考えていく。芸術論における目標は、以下の3点である。(1)芸術作品を「見る」ことそれ自体に、問題意識を持つことができる。(2)古い時代から現代まで、歴史の中で生み出された芸術作品を「見る」際に、どのような問題が伴うかを考える力を身に付ける。(3)ある時代の芸術作品を考える際に、前提としてそれ以前の時代の芸術作品について学ぶ必要性を理解することができる。	
		文化の歴史	人間が育んできた多様な文化の歴史を概観しながら、その意義について考察していくことが、本授業の目的である。扱う対象は大きくは思想、芸術、文学の分野であるが、そうした伝統的な枠組みに収まらない文化現象も広く想定している。本授業の目標は、(1)文化の具体例に基づきその発展の歴史をたどることができるようになること、(2)いま見られる文化の形式を歴史的に位置付けることを通じて、将来それがどう発展するかを展望できるようになること、(3)そもそも人間はなぜそうした文化を必要として、またそこには人間のどんな本質が現れているかを考察できるようになること、である。	
		音楽	音楽は人間の自然な営みから生まれ、言語や民族性に深く関わりつつ発展を続ける文化である。本授業においては、(1)有史以来の音楽観の変遷、キリスト教との関わりにおける音楽の歴史、そしていわゆる「西洋」に於ける音楽芸術の伝統を学び理解することができる。(2)特に声楽(合唱)と器楽(オルガン)の実践を通して鑑賞力を養う。(3)これら年代的に広範な広がりを持つ音楽の懐にいなわれること、それらの持つ精神性に触れ、心動かされた内容を文章に書き表すことができる。以上をこの授業の目標としている。授業は講義形式をとるが、演奏実習の他、CD、DVD、実演等を通じて可能な限り優れた演奏を鑑賞する機会を設ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 人文系	倫理学	応用倫理学における基本問題を理解することがテーマである。現代社会では、新しい科学の発展に伴って、様々な倫理的問題が生じている。本授業では、(1)具体的には何が問題となっているのか、(2)その問題の持つ倫理的な含意はどのようなものか、(3)そうした問題に対し、我々はどのように対応すれば良いのかについて、応用倫理的な視点から概観する。本授業では、応用倫理上の諸問題について、(1)関連する科学/技術の基本的なあり方が理解できるように、(2)概念上の混乱を取り除き、決定的な観点から問いを立てられるようになる、(3)その解決策を自分なりに検討できるように、ことを目標とする。	
	文学	本授業のテーマは、「自己と他者」「生と死」「家族」「恋愛」「都市」「異空間」などの観点から、日本近現代文学を解析することである。まず、テキスト内部の構造を理解し、その脈絡の中で小説の言葉の意味を把握するための手順を学ぶ。その際、内容だけではなく小説の書かれ方にも注意を向けつつ、分析概念についても学習する。次に、小説内時間や発表時期における歴史的社会的文脈を調査し、それに接続したうえで小説の言葉の意味を探っていく。これらを通じて、本授業では、小説の有する問題について小説の内外から証拠を挙げて考察できるようになることを目指す。なお、日本古典文学や日本以外の国や地域の文学を対象とする場合もある。	
	歴史学	古代史から近現代史まで各教員の専門分野に基づいた講義を通して、歴史学とは、一次史料に基づき史料批判を加え続けていく学問であることを体得していく。授業は講義形式を取り、具体的な歴史史料（文献・絵画・石碑・史跡など）を読み解きながら、歴史を明らかにする手法について学んでいくことになる。本授業では、(1)歴史学の概要について説明することができる、(2)歴史学と現代との関わりについて説明することができる、(3)歴史的な事例について客観的かつ多角的な視点から自分の意見を述べるることができる、ことを目標とする。	
	文化人類学	文化（各社会の人々が共有するものの見方・考え方）は多様である。文化人類学とは、多種多様な異文化の理解を通じて、私達にとってのアタリマエが少しもアタリマエではなかったことに気付くとともに、「人間とは何か」という問いに対し普遍的な答えを探そうとする学問である。講義では概説は最小限にし、異文化の実例を通じて、こうした文化人類学的アプローチの肝心な部分を理解できるように目指す。本授業では、(1)私達にとってのアタリマエが実はちっともアタリマエではないかもしれないと疑う姿勢を身に付けることができる、(2)「人間とは何か」を深く考えようとする態度を身に付けることができる、ことを目標とする。	
	言語論	本授業のテーマは、人間の言語に対してどのような学問的アプローチが可能かを解説することである。内容としては、言語を対象とした学問が古代ギリシア時代にまで遡る歴史を持ち、現在も様々な分野に分かれた多様性を示すことを確認したうえで、言語を対象とした科学的研究がどのようなものか、その概要を提示する。授業は講義形式で行う。本授業の達成目標は、人間の言語と動物による情報伝達の違いを理解し、日本語などを対象とした研究領域や各種言語理論に触れ、人文・社会・自然科学における言語研究の位置付けを理解するとともに、日常的な言語表現の分析などを通して、言語研究の意義を理解することである。	
社会系	心理学	心理学は、個人の行動と心理過程を科学的に明らかにしようとする学問であり、行動の観察と記述を行う基礎研究と行動の予測と制御を目指す応用研究に分けられる。また、ミクロからマクロまで様々な単位の行動を対象とし、生理学に近い領域から社会学に近い領域まで幅広い分野を含んでいる。本授業では、心理学の各領域（知覚、動機付け、学習、発達、パーソナリティ、対人行動、集団行動、など）の研究例を紹介しながら、具体的及び視覚的に説明する。本授業においては、心理学の理論や仮説を、それらを支えている実証的な知見に基づいて説明できるとともに、現実の人間行動を、心理学の概念や用語と結び付けて説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 社会科学	社会学	代表的な社会学の理論を基に、「ライフイベント」つまり個人が生涯に経験するいくつかのイベントについて社会的に考察する力を身に付ける。特に、学校から就職・職業生活、恋愛や友人関係、病気・看護といった、多くの人々が経験する身近なライフイベントが持つ意味を社会学や社会史の観点から見ることによって、現代の社会学理論の有効性を理解する。本授業では、身近な事例から社会的思考法の基礎を学ぶことによって、ミクロな事象とマクロな事象との関連を見つける社会的想像力を身に付けることを目標とする。なお本授業は講義形式で行う。	
	経営学	本授業は、「経営学の理論と企業経営の実際を学ぶ」をテーマとする。授業においては、経営学の理論を使って企業を分析できるようになるとともに、企業経営の実際と照らし合わせて自身のキャリアパスを描くことができることを目標とする。授業では、まず企業とは何かについてその役割や形態について学び、その後、経営学の諸学説を現実の企業経営に照らし合わせながら理解を深めていく。そして、企業経営の実際として、ケース研究により企業事例を学ぶとともに、近年の企業課題について環境経営やCSR(企業の社会的責任)などから迫っていく。授業は講義形式で行い、受講生は毎回小レポートを提出して内容の理解を深める。	
	経済学	教養科目として経済学を学修する意義の一つは、「政策や法律が、私たち市民等の個人や会社等の団体に対してどのような影響を与えるかを推測したり、評価したりするための技術を修得できる」という点である。本授業では、「消費税が上がると、教科書が現在よりも300円高くなったら、大学生の行動はどのように変わるだろうか?」「最低賃金が上がると、コンビニエンスストアの時給が100円高くなったら、大学生の行動はどのように変わるだろうか?」といったことを、筋立てて推論できるような思考力を身に付けることを目標とする。	
	法学	本授業のテーマは2つある。1つは、学生にとって身近な具体例を素材にして、常識的な考えから法的な考えへと歩みを進め、法的思考の特徴とその背景を理解することである。もう1つは、憲法、民法、刑法、労働法などの学習を通じて実定法の概要を把握することである。このようにして受講者は、身近な具体例と法の対応関係を講義形式で学ぶことで、法の体系的知識を獲得する。同時に毎回、受講生同士が議論をする機会を持ち、体系的知識の具体的な応用を学ぶ。本授業においては、各自が法学の基礎知識と思考法を修得し、法的主体として公共世界の構築に参画できるような力を身に付けることを達成目標とする。	
	日本国憲法	日本国憲法を概説することをテーマとし、講義形式で授業を進める。憲法に関わる人権や統治機構といった諸問題について、基本的な考え方を修得するという目標を達成するために、人権とは何か、国会の役割は何か、司法審査の役割は何かといった、憲法の基礎的な知識を概観したうえで、憲法に関わる諸問題を考える際の筋道について説明する。具体的には、「憲法総論(国家・立憲主義・主権・民主主義・その他の日本国憲法上の諸原理等)」「統治機構(国会・内閣・裁判所・地方自治・財政)」「人権(人権の概念・人権の主体・人権の適用範囲・違憲審査基準論・精神的自由・経済的自由・社会権・請求権等)」を扱う。	
	現代の政治	政治学から社会を視ることをテーマとする。政治学の様々な方法・研究成果に言及しながら、現代政治の多様な側面を検討する。それらとの関わりから生じる諸問題に目を向けさせ、対立する意見の中から自分の考えを持つことができるようになることを達成目標とし、現代の身近な政治現象を理解・分析するための重要かつ基本的な概念や理論について講義形式で概説する。具体的には、政治社会学の視座、政治とは、道具・装置としての概念、個人と社会—制度と社会化の視点から—、制度、社会化、青年期と産業社会、政治社会—支配性を中心に—、権力と服従、権威/権威主義、日常生活における権力作用、制度及び社会の再生産を扱う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 社会系 自然系	地理学	本授業は、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、受講生自らが論理的に考えることの重要性に力点を置いた講義を行う。高校時代に地理を学習していない受講生も想定されることから、講義では高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像を使用することで、地理学を身近な学問として感じられるような様々な工夫を取り入れる。本授業の到達目標は、(1)地理学の基礎的な知識を身に付ける、(2)様々な地域事象を地理学的な観点から見るができるようになること、である。なお本授業は講義形式で行う。	
	社会福祉論	本授業は、社会福祉の基本的枠組みを示しながら、社会福祉への興味・関心を深めてもらうことを意図する。具体的には、社会福祉の理論、歴史を中心にして、現代社会福祉の課題と展望について明らかにする。また具体的な福祉活動を紹介することで、受講生には社会福祉活動の明確なイメージを持ってもらいたい。本授業では、(1)現代における社会福祉の意義と役割について理解することができる、(2)現代における社会福祉の現状と課題について理解することができる、ことを到達目標とする。なお本授業は講義形式で行う。	
	ジェンダー論	本授業では、「近現代哲学の主体概念と女性」「新国際分業と女性」「IT技術とジェンダー」「Black Lives Matterと黒人のセクシュアリティ」「性的多様性と文学」といった領域横断的な主題から、現代社会と文化におけるジェンダーの諸問題を学ぶ。まず国内外のニュースや事例を紹介し、その背景にある性差を巡る前提を考察する。次に、その前提を批判的に理解するための概念や理論を導入する。概念と理論を深く知るため、歴史的背景を補足しながら作品（文学や映画等）を導入し、理論的に解説する。これらを通じて、本授業では、ジェンダーの諸問題を深く考えさせ、ジェンダー研究の意義を理解することを達成目標とする。	
	東北地域論	東北地方の地域経済の実態や課題を、当地域の分析のみならず、他地域（主に同規模経済の九州）との比較（農業、工業、地場産業、商業）を行いながら検討していく。これを通じて、相対的な東北地域の地域経済の特徴を明らかにしていく。また、東日本大震災からの経済復興についても、その実態と課題を明らかにして、復興の可能性についても考えていく。トピックに応じてゲストスピーカーを呼ぶことがある。本授業では、(1)東北地方の地域経済の地位を、東北地方の自然条件（主に地形と経済活動）、交通条件等から理解できるようになるだけでなく、グローバル化を踏まえた「日本レベル」という位置付けでも理解できるようになる、(2)とりわけ東北独自の産業的特色が理解できるようになる、(3)東日本大震災が東北の地域経済にいかに影響を与えたか、復興の現状と道筋についても理解・評価ができるようになる、ことを目標とする。	
	数理の科学	方程式・不等式などの取り扱いを再確認し、具体的な問題を解くことにより、その有用性について解説する。また、整数など基本的なものの性質を学ぶことを通して数理的な考え方を説明する。本授業では、(1)日常生活で出会う諸問題の中で、高校までに習った数学的手法を用いて解けるものを解こうとする態度を示すことができる、(2)そうした具体的問題を数学的に解くことができる、(3)定性的に解釈された物事を定量的、数理的に捉え直そうとする態度を示すことができる、(4)具体的問題について、定量化の工夫をすることができる、ことを目標とする。	
記号論理学	本授業のテーマとなる「論理」は、日常的な議論において重要であるだけでなく、情報科学や数学、哲学といった分野の基盤としても中心的な役割を担っている。本授業では、現代の記号論理学を学ぶことで論理に対する理解を深める。本授業においては、(1)記号論理学という学問が対象とする論理的現象の性質を正確に説明できる、(2)記号を用いた論理学の出発点となる命題論理の仕組みを理解する、(3)命題論理よりも豊かな表現力を持つ（一階）述語論理を学び、その仕組みを理解する、(4)記号論理学が現代の様々な学問分野においてどのように重要な役割を担っているのかを説明できる、ことを目標とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 自然系	生命の科学	本授業では、生命の原理であるDNAの働きを理解し、その原理から現在の地球を彩る多様な生物がどのように発展してきたかを、生物の特性である「秩序化」「再生産」「成長と発生」「反応性」「恒常性の維持」「進化・適応」と関連付けながら学習する。また、現代社会において生命の科学が我々の身の周りでもどのように応用されているかを、iPS細胞や遺伝子治療などの具体例から学んでいく。本授業では、(1)DNAとは何か説明することができる、(2)生物の多様性がどのように発展してきたか説明することができる、(3)生命活動の動的特徴を説明することができる、(4)様々な問題を生命的視点から科学的に考えることができる、(5)生命の科学と自分自身の生活との関わりが関連付けられる、ことを目標とする。	
	環境の科学	「生物が暮らす空間」としての生物圏は、地球の表層部を覆う厚さ20kmほどの薄層に過ぎない。3000万種とも推定される多様な生物とそれを包み込む環境は、46億年の時を経てどのように進化してきたのか、また、ヒトの活動は生態系にどんな影響を及ぼし、生物圏の未来にどう作用するのか。生物学・生態学の視点から、環境と生物、ヒトの関わりを考える。ヒトの活動による自然環境の激変が、大気や水、植生、食料生産、日々の暮らしに大きな影響を及ぼし、格差や貧困、紛争をも引き起こしている。人類の存続を左右する環境問題の解決に向けて、自分自身は何ができるのか、本授業を履修することによって、グローバルな視点から生物圏の実態と成立過程を理解し、その答えを模索する素地を形成することができることを目標とする。	
	自然の科学	自然科学の考え方を知り、我々の住む宇宙について正しく認識することをテーマとする。主に宇宙や身の周りの自然を題材とし、これまでの科学の発展の歴史や最新の成果についての講義を通して、理論と観測の両面からの科学的な研究の進め方や最新の知見について説明する。また、太陽や惑星など現在の我々を取り巻く天体について知ることで近い将来の課題について考察する。本授業では、(1)科学的な問題や日常的な問題に対して論理的な考え方ができること、(2)宇宙の時間的・空間的な広がりを知り、その中での人類の位置を考えることができること、を目標とする。	
	先端科学と技術	本授業のテーマは、先端の科学と技術の変遷と、その発展に付随する問題や社会・環境との関わりを考え、理解することである。具体的には科学技術の変遷を背景として、現代の先端技術を幅広く、各回に個別テーマを設定して講義する。テーマとしては、自然エネルギーや燃料電池、ナノテクノロジー、ロボット、バイオテクノロジー、医療技術といった、今後の発展を見据えた技術そのものに加え、環境問題などの科学技術の発達に伴う負の側面、社会との関わりや倫理面などについて、今後の展望を含めて扱う。本授業においては、先端科学技術の展望と、エネルギー、社会、倫理、環境との関わりや諸問題を説明・議論できることを目標とする。	
	AI社会の基礎	本授業では、現代の情報化社会に至る経緯を振り返り、今後のAI社会への発展について学ぶ。特に、今後、情報化社会の基礎となるAIが持つ様々な役割を理解し、知識基盤社会の中で生活する我々に必要とされる知識を習得し倫理感を身に付ける。そのために、情報の価値など基礎的な内容から、AIの誕生と普及・ビッグデータの活用などの応用面まで広く学ぶ。本授業においては、(1)AI社会の特徴を理解し各々の個人がその構成員であることを説明できる、(2)AI社会を構成する様々なシステムの役割を説明できる、(3)AI社会の中でデータや情報を取り扱う際に必要となる基礎的な知識や技術を活用できる、ようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第1類	英語ⅠA	本授業の目的は、日常生活や社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランス良く育成・向上させるために、各教員が選んだ教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、練習問題への解答などの活動を行う。入学時プレースメントテストの成績に応じたクラス編成に従い、学生の能力に応じてCEFR A1.2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。	
	英語ⅠB	本授業の目的は、「英語ⅠA」に引き続き、日常生活や社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。各教員が選んだ教材を用いて、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランス良く育成・向上させるために、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、練習問題への解答などの活動を継続する。「英語ⅠA」でのクラス編成に従い、学生の能力に応じてCEFR A2.1からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。	
	英語ⅡA	本授業の目的は、社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「英語ⅠA・ⅠB」の履修で到達した「読む・書く・聞く・話す」の4技能のレベルをさらに向上させるために、難易度を上げた教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、口頭発表などの活動を行う。クラス配属は「英語ⅠA・ⅠB」の学習成果を踏まえて調整され、各クラスに設定されたCEFR A2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。	
	英語ⅡB	本授業の目的は、「英語ⅡA」に引き続き、社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「読む・書く・聞く・話す」の4技能のレベルをさらに向上させるために、難易度を上げた教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、口頭発表などの活動を継続する。受講者は「英語ⅡA」と同じクラスに属し、各クラスに設定されたCEFR A2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。	
第2類	ドイツ語ⅠA	ドイツ語文法の基礎を学ぶ。発音規則の修得から始め、動詞の現在人称変化、冠詞や名詞の格変化、前置詞、話法の助動詞程度までの文法項目を範囲とする。教科書の問題演習に加えて小テストを頻繁に繰り返すことにより、文法の基礎的知識の定着を図る。折に触れドイツの地誌や生活を紹介しながら、ドイツ文化全般についての興味関心を喚起する。発音練習と聴き取り練習も随時行う。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語のテキストを正しく音読できること、(2)ドイツ語初学者にとって最も重要な基本的文法事項を正確に理解すること、(3)旅行に必要な程度のドイツ語の聴き取りと発話ができるようになること、の3点である。	
	フランス語ⅠA	フランス語の初級文法と発音を学ぶ。初学者が特につまづきやすい箇所を重点的に説明し、練習問題を解くことにより知識の定着を図る。授業で扱った文法項目に関して、毎回一定量の練習問題を宿題として課す。文法と発音の習得に並行して、よく使われる表現方法を学び日常会話への糸口とする。ヨーロッパの諸言語との類似性にも触れ、フランス語の基礎文法習得の助けとする。また、文法学習への意欲維持のために、フランスの文化や生活を適宜紹介する。本授業においては、(1)フランス語のテキストを正しく音読し、文法を理解しながら読むことができること(2)旅行に必要な程度のフランス語会話ができること、を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語 I A	中国語(普通話)の基礎を学ぶことを目的とする。我々が中国語(普通話)を学ぶうえでの最大のネックは、皮肉にも漢字に親しみすぎている点にある。日本語として「読む」ことに慣れすぎて、外国語として「聞く」また「話す」ことに思い至らない。ならば、まずは耳と口のフォーマットから始めよう。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う発声及び発音練習が中心になる。本授業では、(1)拼音の書記法が分かるようになる、(2)拼音を見て、中国語音を発声できるようになる、(3)簡単な挨拶ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、準4級から4級レベルの取得を目標とする。	
	韓国・朝鮮語 I A	本授業では、初めて韓国・朝鮮語を学ぶ学生を対象に、韓国・朝鮮語の文字・発音・基礎的な文法・会話を習得させる。まず、ハングルの発音を正確に区別して聞き、発音できるようになる。次に、日常的によく使われる挨拶や相槌、私的な話題について簡単な質問を理解して、答えることができるようになる。その他、自分自身や家族、趣味、食べ物などの身近なことについて、韓国人がゆっくり話せばその言葉が理解できるようになり、自分の意見を表現できるようになる。これらを通じて、ハングル検定5級(TOPIK1級)に合格できるような「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。	
	ドイツ語 I B	「ドイツ語 I A」で学んだ内容をさらに発展させて、ドイツ語文法の基礎力の完成を目指す。修得する文法事項としては、動詞の3基本形、完了形、受動態、関係詞、接続法などが中心となる。文法力と語彙力を高める問題演習や小テスト、さらには実践的な音声教材も併用しながら、初級レベルの文法知識の定着を図る。ドイツに関するアクチュアルな情報も随時紹介する。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語のテキストを正確かつ淀みなく音読できるようになること、(2)ドイツ語文法の基礎的項目をすべて理解し説明できるようになること、(3)CEFRのA1レベル(ドイツ語検定試験4級程度)のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語 I B	「フランス語 I A」に引き続き、フランス語の基礎文法のうちの後半部分(動詞の直説法現在形に加えて様々な時制、条件法や接続法など)を学ぶ。法の変化や時制の変化がもたらすニュアンスを敏感に感じ取れるようにしながら、より高度な読解力を養成する。授業で扱った文法項目に関しては、毎回一定量の練習問題を宿題として課し、学修事項の定着を図る。本授業においては、(1)辞書さえあれば平易なフランス語を読解できるようになること、(2)正確に発音できるようになること、(3)日常生活での定型的な言葉のやり取りができること、を目標とする。	
	中国語 I B	中国語(普通話)のレベルアップ(基礎から初級へ)を目的とする。我々が中国語(普通話)を学ぶうえでの最大のネックは、皮肉にも漢字に親しみすぎている点にある。日本語として「読む」ことに慣れすぎて、外国語として「聞く」また「話す」ことに思い至らない。ならば、まずは耳と口のフォーマットから始めよう。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う会話練習が中心になる。本授業では、(1)中国語(普通話)音を聞いて、拼音に書き記せるようになる、(2)簡単な文や会話を文法に則して理解できるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、4級から3級レベルの取得を目標とする。	
	韓国・朝鮮語 I B	本授業では、「韓国・朝鮮語 I A」の履修者を対象に、比較的使用頻度の高い単語や文法を習得させる。特に、数字の理解を通して、食堂での注文や買い物、時間を約束する際に、意見を述べたり、相手の言葉が正確に理解できるようになる。そして、過去のことや未来の予定などについて話すことができ、旅行をする際には道を聞いて相手の言葉が理解できるようになる。また、目上の人に対して、基本的な敬語を用いて話し、相手の敬語が理解できるようになる。これらを通じて、ハングル検定4級(TOPIK2級)に合格できるような「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付け、更には韓国の大学に交換留学ができることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	ドイツ語ⅡA	「ドイツ語ⅠA・ⅠB」で修得した文法項目の確認と復習をしながら、中級レベルのドイツ語力養成を目指す。インターネット上の簡単な記事、子ども用百科事典、短い小説など、平易なドイツ語原文をテキストにしなが、実践的な読解力養成を目指す。また、音読の復習や語彙力のトレーニングも随時行うことによって、ドイツ語の総合的な基礎力を確実なものとする。本授業の到達目標は、(1)1年次に修得した文法項目をさらに正確に理解すること、(2)ドイツ語の原文を、辞書を使って正確に読むことができるようになること、(3)ドイツ語のサイトを自分で検索し、必要な情報を手に入れるようになること、の3点である。	
	フランス語ⅡA	フランスの文化について紹介されたテキストを読み、基礎文法の定着を図りつつフランスの社会や歴史についての知識を深める。テキストを音読するトレーニングを繰り返しながら、あわせて語彙量を増やし、フランス語の総合的な基礎力を確実なものとする。本授業では、(1)テキストに書かれた内容を理解するだけでなく、フランスの文化を通して日本の社会や生活文化を相対化した視点から捉え直すことができるようになること、(2)基礎文法と語彙の力を伸ばし、平易なフランス語であれば苦勞することなく理解できるようになること、を目標とする。	
	中国語ⅡA	中国語(普通話)のレベルアップ(初級から中級へ)を目的とする。拼音が自由自在に駆使できるようになると、辞書や参考書の類も利用できるようになる。当然、自学自習の方法も多種多様化するので、教育方法もまたバリエーションに富むことになる。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」のレベルを織り交ぜつつ進む。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う。本授業では、(1)中国語の基礎を理解できるようになる、(2)工具書の利用法を身に付けられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅡA	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」の履修者を対象に、中級(前半)の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。尊敬語を用いた丁寧な依頼はもちろんのこと、適切な言葉を使って承諾したり拒否することができるようになる。興味のある分野について簡単に話したり、辞書を用いて書けるようになる。使用頻度の高い慣用句・連語や言い回しのほか、各種お知らせや説明書について、正確に理解できるようになる。韓国のニュースは、簡単な時事問題ならほとんど理解できるようになる。ハングル検定3級(TOPIK3級)に挑戦できるようになることを目指す。	
	ドイツ語コミュニケーションA	1年次に学んだドイツ語の基礎事項をベースにしなが、ドイツ語による基本的なコミュニケーション能力(聞く、話す、読む、書く)を養成する。日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、口頭練習を繰り返すことで、実践的なドイツ語力を確実に身に付け、語彙を拡大することで表現の幅を広げていく。ドイツの地誌の説明、日常生活や文化の紹介、ときにはドイツ語の歌の練習なども行う。この授業の到達目標は、(1)ドイツ語の聴き取りと発話ができるようになること、(2)ドイツ語で自己紹介ができること、(3)シチュエーションに応じた簡単なドイツ語のやりとりができること、の3点である。	
	フランス語コミュニケーションA	1年次に学んだ基礎文法をベースにしなが、会話の実践を通して、フランス語の聴解力と発信力を身に付ける。日常的な挨拶表現からはじめ、まずは平易な文法知識と語彙力を用いて自己紹介や天候、時間表現など日常的な定型表現を修得する。さらに様々な場面を設定しながら、適切な代名詞の使用などこれまでに学んだ文法知識を会話に活かす術を学んでいく。本授業においては、(1)簡単な挨拶や自己紹介ができること、(2)道順や時刻などをフランス語で説明できること、(3)平易な会話(自分の好きなことや趣味など)ができるようになること、を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語コミュニケーションA	1年次に学んだ中国語(普通話)の基礎をベースに、日常生活に必要なコミュニケーション能力(聞く、話す、読む、書く)を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、語彙を増やすことで表現の幅を広げていく。また、折に触れ、動画や歌を鑑賞し、中国(台湾を含む)の文化を多面的に理解する。本授業では、(1)中国語で自己紹介ができる、(2)シチュエーションに応じた簡単な中国語のやりとりができる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語コミュニケーションA	「コミュニケーション能力」というのは、口頭で自分の意見を伝える能力及び文章で自分の意見を論理的に伝える能力を意味する。本授業では、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」の履修者を対象に、様々な場面での韓国語会話及び作文を練習する。特に、(1)本学を訪れる韓国人留学生と積極的に交流し、宮城県・仙台・自分の地元の有名な所を推薦したり、学校の施設や博物館・文学館・科学館・水族館などの利用方法を説明できるようになる、(2)辞書があればK-POPの歌詞が完全に、教員が指導すればドラマの基本的な表現も理解できるようになる、(3)関心のある分野について理解したり表現できるようになる、ことを目指す。	
	ドイツ語ⅡB	「ドイツ語ⅡA」で学んだことをベースに、中級レベルのドイツ語力のさらなる向上を目指す。ドイツ語の雑誌や新聞記事、学術的書物の入門書、有名な小説など、ドイツ語の原文をテキストとしながら、より高度な読解力を身に付けることが目標である。ドイツ語による文章作成練習なども随時取り入れることによって、実践的なドイツ語力も高める。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語文法の基礎事項をすべて正確に理解すること、(2)ドイツ語で書かれた普通の文章を、辞書を使って正確に読めるようになること、(3)CEFRのA2レベル(ドイツ語検定3級程度)のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅡB	「フランス語ⅡA」に引き続き、基礎文法の復習をしながら、フランス語で書かれた平易な短編小説などを、辞書を使って読み進めていく。調べた意味の連鎖から単に意味を読み取ろうとするのではなく、学んできた文法知識に基づいて正確に文章を解釈する訓練を行う。条件法や接続法、単純過去時制、話法変換などの解説を丁寧に行い、初等文法で取りこぼしがちな文法事項の穴を埋めていく。本授業においては、(1)フランス語の基本文法をすべて理解できること、(2)辞書を使いこなし、フランス語で書かれた小説を正確に読めること、(3)物語世界を味わうこと、を目標とする。	
	中国語ⅡB	中国語(普通話)のレベルアップ(初級から中級へ)を目的とする。拼音が自由自在に駆使できるようになると、辞書や参考書の類も利用できるようになる。当然、自学自習の方法も多種多様化するので、教育方法もまたバリエーションに富むことになる。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」にも留意しつつ進む。授業は小規模クラスで、マンツーマンに近いスタイルで行う。本授業では、(1)やや複雑高度な文型や文法事項を理解できるようになる、(2)長めの会話ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級の上位合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅡB	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅡA」の履修者を対象に、中級(後半)の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。特に、日常会話だけでなく、ビジネスにおいても尊敬語を用いた丁寧な依頼はもちろん、適切な言葉を使って受諾したり拒否することができるようになる。次に、興味のある日韓の時事問題について論理的に話せたり、書けるようになる。その他、使用頻度が高い四字熟語・諺についても理解したり、比較的長い文章を読んでも理解できるようになる。韓国のニュースは、教員の指導があれば理解できるようになる。ハングル検定3級(TOPIK3級)の合格、更には韓国の大学に交換留学ができることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	ドイツ語コミュニケーションB	より高度なドイツ語のコミュニケーション能力を総合的に身に付けるための練習を行う。ドイツ語の文章を読んで素早くその内容を理解する読解練習、ドイツ語での会話にナチュラルなスピードで応答する口頭練習、さらには発話力をさらに高めるトレーニングとして、ドイツ語による作文練習も多く取り入れる。この授業の到達目標は、(1)よりナチュラルなスピードのドイツ語を聴き取れるようになること、(2)ドイツ語で何かを説明したり、自分の意見を明確に表現できるようになること、(3)ドイツでの生活に必要な実践的なドイツ語運用能力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語コミュニケーションB	「フランス語コミュニケーションA」に引き続き、会話の実践を通して、フランス語の聴解力と発信力を身に付ける。直説法現在に加え、近接未来や近接過去、複合過去や単純未来など様々な時制を用いた表現を具体的な場面に即して練習していく。さらには、条件法を用いて仮定に基づくできごとを表現したり、接続法を用いて主観的感情を表現したりするなど、より高度な文法知識を適切に用いて会話に活かす術を学ぶ。本授業においては、(1)ゆっくりであれば簡単なフランス語を聞き取れるようになること、(2)過去や未来、仮定的な出来事などをフランス語で表現できるようになること、を目標とする。	
	中国語コミュニケーションB	「中国語コミュニケーションA」を引継ぎ、中国語のレベルアップ（初級から中級へ）を目的とする。日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、語彙を増やすことで表現の幅を広げていく。また、折に触れ、動画や歌を鑑賞し、中国（台湾を含む）の文化を多面的に理解する。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」のレベルを織り交ぜつつ進む。本授業では、(1)日常生活のやや複雑高度な文型や文法事項を理解できるようになる、(2)長めの会話ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級の上位合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語コミュニケーションB	本授業では、「韓国・朝鮮語IA・IB」及び「韓国・朝鮮語コミュニケーションA」の履修者を対象に、様々な場面での韓国語会話及び作文を練習する。特に、(1)本学を訪れる韓国人留学生と積極的に交流し、日本と韓国の考え方や生活の違いについて議論したり、自分と違う考えを持つ人を説得できるようになる、(2)他の人の悩みを聞き、的確適切な言葉を用いてアドバイスできるようになる、(3)K-POPの歌詞は辞書がなくても完全に理解し、ドラマや映画は先生の説明があれば、ほとんど理解できるようになる、(4)関心のある分野について理解したり表現できるようになる、ことを目指す。	
	ドイツ語ⅢA	1、2年次に修得したドイツ語の知識を活かしながら、さらなるドイツ語力の向上を目指す。新聞の論説や雑誌のアクチュアルな記事、学術的内容の専門書、有名な古典や小説等をテキストとして、より高度な読解力を養う。また、特定のテーマについて、その内容をドイツ語で説明したり、自分の意見をドイツ語で話したり書いたりする練習も行う。この授業の到達目標は、(1)高度な文章を辞書を使って正しく読み解くことができるようになること、(2)特定のテーマについて自分の意見を正しく話したり書いたりできるようになること、(3)CEFRのB1レベル（ドイツ語検定2級程度）のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
フランス語ⅢA	「フランス語ⅡA・ⅡB」の発展的内容となる。読む力のみならず、特に聞き取る力の向上を目指す。聞き取りは、正確に発音する力が前提となるうえ、文法知識はもとより豊富な語彙力が必要であり、その意味で総合的な語学力を身に付けなければならない。段階的に、ある程度のレベルの文章を正確に読み解く練習、そのテキストの内容を具体的コンテキストに応じて適切に理解し概略を把握する練習、理解に基づいて適切な反応を適切な表現で行う練習を重ねる。本授業においては、主に聞き取りの訓練を行うことで、読解力、語彙力、発音といった総合的な力を養うことを目標とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語ⅢA	1、2年次に学習した中国語(普通話)の知識と経験を活かしながら、更なる中国語力の向上を目的とする。拼音の付された語学用のテキストではなく、ネイティブの中国人が読む新聞や雑誌記事、エッセイ、小説等を、多種多様な工具書を駆使して、理解できるようにする。またweb上に流れるニュースやドラマを積極的に利用し、聞く力と話す力を涵養する。本授業では、(1)高度なテキストを正しく理解できるようにする、(2)自分の意見を中国語らしく書き、述べられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、2級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅢA	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅡA・ⅡB」の履修者を対象に、高いレベルの「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。日常的な場面で広く用いられる会話はもちろん、指示・依頼・誘い・予定・過去の出来事など、やや特別な場面においても、相手に対し失礼のない言葉や表現を選び、十全なコミュニケーションを取れるようになる。また、平易なニュースや新聞の記事であれば、辞書がなくても理解でき、自分の意見も十分に述べられるようになる。ハングル検定準2級(TOPIK4級)に挑戦できるようになることを目指す。	
	ドイツ語ⅢB	これまでに修得したドイツ語の知識をすべて活かしながら、より高度なドイツ語力の養成を目指す。「ドイツ語ⅢA」に引き続き、新聞の論説や雑誌の記事、専門書、古典や小説等をテキストとし、またネットから入手できるアクチュアルなニュース動画等も適宜用いながら、ドイツ語の総合力をさらに高める。留学後のドイツ語力の維持や大学院進学準備にも対応できる内容としたい。この授業の到達目標は、(1)ドイツ語圏での留学生活に支障のないドイツ語力を養うこと、(2)研究に必要なレベルのドイツ語文献を正確に読解できること、(3)CEFRのB1～B2レベルのドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅢB	「フランス語ⅢA」の内容を引き継ぎ、読み応えのあるフランス語のテキストの読解と聞き取り練習を中心に授業を進めていく。読解においては、単にフランス語の運用能力を鍛えるだけではなく、テキストの内容を深く掘り下げながらフランス文化や社会、思想などについて学ぶ。聞き取り練習においては、反復訓練を通じてネイティブスピーカーの正確な発音やリズムをも修得する。本授業においては、これら読解や聞き取りで学んだより自然な表現やより高度な表現、より多くの語彙を用いて、自らの考えを不足なく表現できるようアウトプットの能力も鍛え、総合的な力を養うことを目標とする。	
	中国語ⅢB	「中国語ⅢA」を引継ぎ、更なる中国語力の向上を目的とする。ネイティブの中国人が読む新聞や雑誌記事、エッセイ、小説等のほか、学術的ないし歴史的なテキストを、多種多様な工具書を駆使して、理解できるようにする。またweb上に流れるニュースやドラマを積極的に利用し、普通話のみならず、台湾国語や華語のバリエーションを意識できるようにする。本授業では、(1)高度なテキストを正しく理解できるようにする、(2)自分の意見を中国語らしく書き、述べられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、2級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅢB	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅢA」の履修者を対象に、高いレベルの「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。日常的な会話はもちろん、職務上の業務遂行に関する話題まで表現することができるようになる。また、様々なジャンルや文体の韓国語の文章を読んで理解でき、背景の説明があれば、日韓の専門的な時事問題について理解し、自分の意見を表現できるようになる。また、広い範囲で、慣用句・四字熟語・諺・方言を理解できるようになる。ハングル検定準2級(TOPIK4級)の合格、そして学習を継続すれば、韓国での就職や大学院進学ができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第3類	ベーシック英語	本授業は、入学時のプレースメントテストにおいて英語力がCEFR A1.2(英検3級相当)に達していないと判定された者を対象に開講され、英語の基本的な事項の学び直しをするとともに、英語の適切な学習方法を身に付けることを目的とする。いわゆる「リメディアル教材」を用いて、基本的な文法や表現を復習しながら、聞く・話す・読む・書くの活動を行い、それによって、4技能においてA1.2レベルに到達することを目標とする。本授業の履修を指示された者は、本授業の履修終了後に「英語ⅠA・ⅠB」を同時履修する。	
	英語コミュニケーション	本授業は、英語4技能のうち「聞く・話す」に重点を置き、口頭でのコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。授業での活動は、口頭でのペアワークやグループワーク、発表や質疑応答などが中心となるが、話すための準備や、話した後のまとめとして読む活動や書く活動も適宜取りれる。入学時プレースメントテストの成績に応じたクラス編成に従い、受講者各自が履修開始時よりもスムーズに、英語でやりとりができるようになることを目標とする。なお、本授業は、教育職員免許状取得の要件となる「外国語コミュニケーション」能力に対応した科目である。	
	英語ⅢA	本授業の目的は、「英語ⅡA・ⅡB」での学修を踏まえ、CEFR C1レベルの英語検定試験に対応できるような英語運用能力を身に付けることである。具体的には、TOEICなどの出題形式を意識した取り組みを通して、ビジネス分野や学術分野での専門的な語彙力の増強や、一定程度の内容を持った専門的英文の正確な理解、パラグラフ構造の理解、論理的意見の聴取と表明などができるようになることを目標とする。受講者としては、「英語ⅡA・ⅡB」で上位クラスに所属していた者、CEFR B2相当の能力を保持している者を想定している。	
	英語ⅢB	本授業の目的は、「英語ⅡA・ⅡB」での学修で到達した話す能力のレベルを維持し、さらに伸ばすことである。具体的には、専門的あるいは高度な内容の話題を扱った英文を読んだり、口頭説明を聞いたうえで、その内容について口頭で要約する、意見を述べる、他者の意見を聞き質問する、議論をする、議論を整理する、などの活動を通して、発展的な英語コミュニケーション能力を獲得することを目標とする。受講者としては、「英語ⅡA・ⅡB」で上位クラスに所属していた者、CEFR B2相当の能力を保持している者を想定している。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健体育科目	スポーツ実技A	各種スポーツ競技を通して、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学ぶ。到達目標は、(1)各種スポーツの意義や重要性を理解する、(2)身体の可能性や限界を理解し、日常生活に活かすことができる、(3)他者を理解し、円滑なコミュニケーションに活かせる、(4)各種スポーツの基本的な技術を習得する、(5)各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる、とする。種目は、主として屋内運動種目を中心に実施する。初回のガイダンスと第2回目の体力測定後に、スポーツ活動を実践し、基本技術・ルール等を学ぶ。	
	スポーツ実技B	本授業では、自身に適した運動プログラムを立案し心身の健康や体力を高めるための実践方法を学ぶ。具体的には、全身持久力・筋力・柔軟力を高める運動を主として行う。運動は、特殊な機器を用いたものから、自宅でもできる運動を含めて行う。自身の体力水準に応じて適切に種目・強度・頻度等を選択し、運動プログラムを作成する。到達目標は、(1)健康と体力の意義や重要性を理解する、(2)各種トレーニングを自らが実際に実践できる、(3)心と身体をメンテナンスできる知識や能力を身に付け、実践できる、(4)新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる、とする。	
	体育講義	健康や体力維持・増進のために行う運動・スポーツをより効果的にするために、運動・スポーツの科学的理論の理解が必要である。本授業では運動・スポーツ生理学に関わる理論を中心に分かりやすく解説する。本授業では、(1)運動の健康に対する効果の重要性を理解できる、(2)健康に関連する体力（身体組成、筋力、全身持久力）と生理的なしくみの関係性を理解できる、(3)健康・体力の維持増進のための運動プログラムを作成できる、ことを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留 学 科 目	海外研究A	本学の国際交流協定校において夏期に実施される海外研修(現地研修)と事前学習及び事後学習からなる。参加者は、事前学習として現地の文化、歴史、言語、生活様式に関する基礎知識と基礎的な外国語運用能力を身に付けるとともに、研修中に行う研究の計画案を作成する。現地研修は、外国語集中講座及び現地の文化、歴史、言語、生活様式に関する講義の3～4週間からなる。なお、現地研修終了後は、現地研修に基づいた研究成果を研究報告書としてまとめ、発表及び提出する。研究報告書及び事前学習への参加状況と現地での活動で総合的に評価する。本授業では、現地の社会的、文化的及び言語的な側面を理解し、その概要を伝えることができるようになることを目標とする。	
	海外研究B	国際交流協定校及び協定校附属校(語学堂を含む)が募集する、春休み若しくは夏休みに実施される現地プログラムに参加することによって、外国語及び文化、歴史、生活様式などを現地研修を通して学ぶ。異文化を直接体験し、グローバルな視野と積極的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。なお、協定校が提供するオンライン短期留学も対象とする。対象となる短期留学に参加した結果を国際交流課で確認し、参加プログラム授業時間が合計2,700分以上の者に2単位を付与する。	
	海外研究C	国際交流協定校及び協定校附属校(語学堂を含む)が募集する、春休み若しくは夏休みに実施される現地プログラムに参加することによって、外国語及び文化、歴史、生活様式などを現地研修を通して学ぶ。異文化を直接体験し、グローバルな視野と積極的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。なお、協定校が提供するオンライン短期留学も対象とする。対象となる短期留学に参加した結果を国際交流課で確認し、参加プログラムの授業時間が合計1,350分以上2,700分未満の者に1単位を付与する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国人及び帰国生科目	日本語ⅠA	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、聴講の日本人学生と協働し、日本語の4技能を統合したプロジェクトワークを行う。具体的には、まず、若者言葉・方言・曖昧表現・オノマトペ等の「ことば」をテーマに関連した教材の視聴や読解を行い、ディスカッションを行う。次に、チームごとに、受講生自身が問いを立て、深く調べ、発表・報告を行う。また毎回内省を書くことで、自身の日本語表現を客観的に見直していく。この一連の過程により、日本語を多角的に捉えると同時に、実践的でアカデミックな日本語力を身に付けることを目標とする。	
	日本語ⅠB	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、聴講の日本人学生と協働し、日本語の4技能を統合したプロジェクトワークを行う。具体的には、「留学生の目から見た実際の日本」をテーマに、雑誌作成や動画作成等の創作活動を行う。チームで企画を立案し、雑誌作成においてはアンケートやインタビュー調査の実施、記事執筆、編集及び発表・報告を、動画作成においては脚本作成、出演、撮影、演出、編集及び発表・報告を行う。この過程で実践的な日本語力を身に付けると同時に、日本文化に関して見識を深め、自身なりの意見を効果的に相手に伝えられるようになることを目標とする。	
	日本語ⅡA	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、アカデミックな日本語のライティングをテーマに、日本の大学で学ぶ留学生に必要な日本語運用能力を身に付けていく。まず、教材の読解を通し、文法・漢字・語彙・表現を学び、理解力を高める。さらに、練習を通して論理的にレポートが書けるよう練習していく。具体的には、説明・定義・分類・比較対照・因果関係等の文構造・文章構造について、課題を通じて学ぶ。本授業においては、論理的な思考方法を身に付け、論理的な文章の展開方法を意識して文章の構成を考えられるようになることを目標とする。	
	日本語ⅡB	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、アカデミックな日本語のライティングをテーマに、日本の大学で学ぶ留学生に必要な日本語運用能力を身に付けていく。具体的には、論説文の特徴をつかんだうえで、要約・引用・長文展開の方法について学ぶ。さらに、レポート作成の手順について学び、環境問題・就職活動・少子化等の課題に沿って論理的な文章を書く練習を行う。また、書いたものを協働作文活動により推敲していく。これらの過程を通し、日本語による文章の論理的な展開を身に付け、読み手を意識し、首尾一貫した説得力のある文章を書けるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基幹科目	国際学概説	<p>本授業では、国際教養学科の3つの柱（1）言語と文化の多様性、（2）東アジア地域の歴史と現状、（3）グローバル化する社会の課題、それぞれについて、どのようなことを扱うのかを理解することを目的として、本学科の学問分野の概要を学ぶ。本授業を通じて受講生が自身の学びの方向性を決める指針を得ることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 渡部 友子／2回） 外国語学習論をテーマに、外国語を学ぶことにはどんな困難と利点があるかを説明する。また、15回目のまとめとして、学科での学びの体系を整理し、どのような履修の仕方が可能かを示す。</p> <p>（13 杵掛 沙弥香／1回） 言語政策論をテーマに、英語教育のあり方を巡る日本とタンザニアでの議論を比較する。</p> <p>（3 Andrews Dale Kenneth／1回） 比較文化論をテーマに、自文化と他文化との比較を通じ、文化の持つ多様性と普遍性を探求する。</p> <p>（5 古川 弘子／1回） 比較言語論をテーマに、翻訳とは何であるかを考え、異文化理解の問題点と可能性について探る。</p> <p>（8 金 亨貞／1回） 応用言語学をテーマに、言語学の研究成果の応用として、第二言語習得やコーパス言語学を中心に紹介する。</p> <p>（14 佐藤 真紀／1回） 日本語教育をテーマに、日本語教育学とはどのような学問かを概観する。</p> <p>（10 房 賢熿／1回） 日本語教育をテーマに、内容重視の日本語教育、中でも持続可能な日本語教育について説明する。</p> <p>（9 城山 拓也／1回） 中国の言語と社会をテーマに、中国・中華圏の言語、文化、社会についての基礎知識を説明する。</p> <p>（6 松谷 基和／1回） 韓国の言語と社会をテーマに、朝鮮半島の言語、社会、歴史について概観する。</p> <p>（4 郭 基煥／1回） 東アジア論をテーマに、東アジアにおけるナショナリズムの現状を分析し、その未来について展望する。</p> <p>（11 Flick Ulrich／1回） 東アジア論をテーマに、歴史を通じて東アジアの国々の在り方と相互関係について概観する。</p> <p>（7 三須 拓也／1回） 国際政治論をテーマに、現代の国際政治の特徴とその歴史的形成過程の概略を説明する。</p> <p>（12 李 承赫／1回） 国際関係論をテーマに、グローバルな人材が身に付けるべき国際関係に関する知識と能力について説明する。</p> <p>（2 佐々木 郁子／1回） 国際ビジネス論をテーマに、企業のグローバル化の過程及び日本企業と海外の企業の違いについて説明する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 幹 科 目	異文化体験演習A（外国人支援）	本授業では、コミュニケーション手段として学習中の外国語又は日本語を活用しながら、外国出身者への具体的な支援方法を構想できるようになることを目標とする。受講者は、仙台近郊に短期的あるいは長期的に在住している外国出身者（留学生を含む）とつながり、困りごとを聞き取ったうえで、できる範囲での支援を計画し実行する。聞き取り開始から支援終了まで、対象者との間で90分15回に相当するセッションを設定し、毎回セッションの内容の記録と次の計画を作成し、最後にまとめの報告書を提出する。担当教員は、支援中の定期的な見守りと助言を行い、提出物をもとに成績評価と単位認定を行う。
		異文化体験演習B（インターンシップ）	本授業では、民間企業や公的機関などで5日間以上就業体験し、大学とは異なる「企業文化」や「組織文化」に触れることにより、大学での学びの方向性を具体化できるようになることを目標とする。加えて、国際化とは一見無縁の職場に国際化ニーズの芽を発見できれば望ましい。受講者は滞在期間中、業務内容だけでなく従事者の行動や思考の仕方にも観察の目を向け、学びや気づきを記録し、最終日にその記録を先方の担当者に確認してもらう。終了後、卒業するまでに何をすべきかについての考察を書き加えて、担当教員に提出する。担当教員はこの提出物をもとに成績評価と単位認定を行う。
		国際学演習Ⅰ	本授業では、国際教養学科における多様な学習を基盤として、卒業演習につながる研究のための基礎的な資質能力を養うことを目指す。各教員が提示する専門分野の理論的・実践的な演習テーマの中から、受講者が自身の興味や関心等に基づいて一つ選択し、少人数クラス編成にて演習形式（討論やプレゼンテーションを含む）の授業に取り組む。その各授業においては、課題を発見するための思考方法や、その課題を探究するために必要な専門知識や論理的能力の基礎及び課題の性質に則した調査や観察等の技能の基礎を的確に身に付けることを目標とする。
		国際学演習Ⅱ	本授業では、国際教養学科における多様な学習を基盤として、卒業演習につながる研究のための基礎的な資質能力を養うことを目指す。「国際学演習Ⅰ」において受講者が自身の興味や関心等に基づいて選択した演習テーマを扱う教員の指導を引き続き受けながら、少人数クラス編成にて演習形式（討論やプレゼンテーションを含む）の授業に取り組む。その各授業においては、(1)課題を探究するために必要な専門知識や論理的能力及び課題の性質に則した調査や観察等の技能を高めること、(2)卒業演習のおおまかな研究課題をイメージすること、を目標とする。
		卒業演習Ⅰ	本授業は、国際教養学科における4年間の学びの総括として、研究課題を設定し、その研究成果をまとめることを目的とし、各指導教員による研究指導を中心として実施される。本授業で受講者は、指導教員の助言を受けながら、研究計画を立て、それに従って研究を進め、進行状況を中間発表等において報告するところまでを行う。本授業の目標は、(1)先行研究を批判的に考察しながら課題を絞り込むことができること、(2)設定した課題に則した調査や観察を計画できること及び(3)そこまでの過程について資料を示して報告できること、である。
		卒業演習Ⅱ	本授業は「卒業演習Ⅰ」に引き続き、国際教養学科における4年間の学びの総括として、研究課題を設定し、その研究成果をまとめることを目的とし、各指導教員による研究指導を中心として実施される。本授業で受講者は、指導教員の助言を受けながら、「卒業演習Ⅰ」で計画した調査や観察等を実施し、その結果を整理・分析したうえで、研究成果としてまとめる。本授業の目標は、(1)研究課題に関する先行研究を適切に整理したうえで、深く議論できること、(2)研究の過程と結果について詳細に説明できること、(3)研究成果を論文や口頭発表等の形態で公表できること、である。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門外国語科目 第1類	総合英語 I A	本授業では、知的好奇心を刺激するような題材を取り上げ、文章だけでなく動画も活用しながら、英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を有機的に関連付け、バランスよく伸ばすことを目指す。授業活動は、題材についての既存知識を活性化し、動画を視聴し推測しながら理解する、付随する説明文を読んで理解する、理解した内容を口頭や文章で要約する、理解した内容を踏まえて自分の考えを形成して話す、他者の意見を聞く、話し合った内容を整理して文章化する、等である。なお、文法や語彙、発音の指導は必要に応じて行われる。「総合英語 I A」と「総合英語 I B」を続けて履修することにより、CEFR B1（中級下位）に到達することを目標とする。授業は週2回開講する。	
	総合英語 I B	本授業では、「総合英語 I A」とは異なる題材を取り上げ、引き続き文章だけでなく動画も活用しながら、英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を有機的に関連付け、バランスよく伸ばすことを目指す。授業活動は、題材についての既存知識を活性化し、動画を視聴し推測しながら理解する、付随する説明文を読んで理解する、理解した内容を口頭や文章で要約する、理解した内容を踏まえて自分の考えを形成して話す、他者の意見を聞く、話し合った内容を整理して文章化する、等である。なお、文法や語彙、発音の指導は必要に応じて行われる。本授業の修了時に、CEFR B1（中級下位）に到達することを目標とする。授業は週2回開講する。	
	英語リーディングセミナー A	本授業では、受講者各自が自身の英語力と興味に合った易しい英文を、辞書を使用せず、楽しみながらたくさん読む、という「多読」の活動を通して、英語運用能力を底上げすることを目指す。クラスはいくつかの班に分割され、個人活動とグループ活動を行った後、教員への報告を行う。個人活動では自分の選んだ本を読み、グループ活動では各自が読んだ本の内容をお互いに英語で語る。さらに読了後の記録を作成し、教員に口頭と書面で報告する。なお個人活動は授業時間外でも継続し、教員への書面報告は授業時間外で行う。この多読授業を継続して履修することにより、開始時よりも難易度が高い英文を楽に読めるようになることを目標とする。	
	英語リーディングセミナー B	本授業では、「英語リーディングセミナー A」修了時のレベルからスタートし、引き続き受講者各自が自身の英語力と興味に合った英文を、辞書を使用せず、楽しみながらたくさん読む、という「多読」の活動を通して、英語運用能力をさらに伸ばすことを目指す。クラスはいくつかの班に分割され、個人活動とグループ活動を行った後、教員への報告を行う。個人活動では自分の選んだ本を読み、グループ活動では各自が読んだ本の内容をお互いに英語で語る。さらに読了後の記録を作成し、教員に口頭と書面で報告する。なお個人活動は授業時間外でも継続し、教員への書面報告は授業時間外のみで行う。この多読授業を継続して履修することにより、中級程度の英文を楽に読めるようになることを目標とする。	
	英語コミュニケーションセミナー	本授業は、英語技能5領域のうちの「やりとり」に特化し、英語での対人コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。本授業では、単に学習言語としての英語によるコミュニケーションを疑似体験するのではなく、話題を選んで自分の考えを語る、相手の話を聞いて質問する、共感する、反論するという、お互いに相手と言わんとすることを明確にしていく協働作業や意味交渉としてのやりとりを、ペアやグループでの活動などを通して英語で実践する。本授業では、(1)自分が言いたいことを、非言語手段も使いながら自分の英語で伝えられるようになること、(2)相手が言っていることを理解できるようになること、を目標とする。	
	英語ディスカッションセミナー	本授業では、東アジアの国際関係を中心とする世界情勢をトピックとし、ディスカッションを中心に英語の4技能をバランスよく伸ばすことを目指す。受講生はアジア地域の外交、安全保障、経済、移民などのトピックの間の相互作用、そして地域主義と民族主義の共存、国内政治と対外政策の関係などについて書かれている英文を読み、ニュース報道や短いドキュメンタリなどの動画を視聴する。その後それらの内容を自分なりに推測・理解し、自分が解釈した内容や重要と考えることを口頭や文章で他者に伝える。同時に他者の意見を聞く有効な方法も身に付け、英語で行う意見交換を通じて、対人コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 第1類 専門外国語科目	初級中国語A	中国語（「普通話」）の基礎を学ぶ。授業の前半は、中国語の発音方法及びローマ字表記法（ピンイン）を習得する。後半は基礎的な文法事項を把握するとともに、作文練習や会話練習を通じて、正しい発音の定着を図る。ペアワークやグループワークを重視し、中国語入門レベルの訓練を行う。中国語検定で言えば準4級レベルを目指す。本授業では、(1)中国語の基礎的な発音を理解し、ローマ字表記法（ピンイン）、簡体字表記を習得する、(2)正しい発音で、ごく簡単な挨拶及び会話ができる、(3)基本的な文法に則って、ごく簡単な中国語の文章の表現ができる、ことを目標とする。授業は週2回開講する。	
	初級中国語B	中国語（「普通話」）の基礎を学ぶ。「初級中国語A」に引き続き、何度も発音練習を行いながら、簡単な文章や会話の練習を行う。また、基礎的な文法事項に基づいた、ごく簡単な文章の読解や、作文練習も進める。ペアワークやグループワークを重視し、中国語基礎レベルの訓練を行う。中国語検定で言えば4級レベルを目指す。本授業では、(1)中国語の発音、ローマ字表記法（ピンイン）、簡体字表記を習得する、(2)正しい発音で、簡単な挨拶と会話ができる、(3)正しい文法理解に基づいて、簡単な文章が読め、簡単な作文ができる、ことを目標とする。授業は週2回開講する。	
	実践中国語 I A	中国語（「普通話」）の基礎を、中国語コミュニケーションに特化して学ぶ。「初級中国語A」の内容と関連させながら、中国語の発音及びローマ字表記法（ピンイン）を習得する。ペアワークやグループワークを重視し、実際のシーンを想定した挨拶や会話の訓練を行う。中国語検定で言えば準4級レベルを目指す。本授業では、(1)中国語の基礎的な発音を理解し、ローマ字表記法（ピンイン）、簡体字表記を習得する、(2)日常会話やコミュニケーションに必要な基本的な文章を、正しく発音することができる、(3)基本的な文法に則って、ごく簡単な中国語の文章が表現できる、ことを目標とする。	
	実践中国語 I B	中国語（「普通話」）の基礎を、中国語コミュニケーションに特化して学ぶ。「初級中国語B」の内容と関連させながら、簡単な文章や会話文を習得する。また、基礎的な文法事項への理解を深めながら、実際のシーンを想定した挨拶や会話の訓練を行う。ペアワークやグループワークを重視し、基礎レベルの中国語コミュニケーションを学ぶ。中国語検定で言えば4級レベルを目指す。本授業では、(1)日常会話やコミュニケーションに必要な基本的な文章を、正しい発音で話すことができる、(2)基本的な文法体系を理解することができる、(3)正しい文法理解に基づいて、簡単な文章を読むことができ、簡単な文章表現ができる、ことを目標とする。	
	初級韓国朝鮮語A	本授業では、韓国・朝鮮語の文字と発音を身に付けた後、初級韓国・朝鮮語の文法と語彙に関する基礎知識を獲得することを目指す。具体的には、「(1)韓国・朝鮮語の文字と発音についての徹底した練習を通して、ハングルの読み書きができるようになる。(2)よく使われる基本的な語彙と日常的な文法表現を学び、簡単な実用文の読解や作文ができるようになる。(3)様々なテーマに関するタスクを通して、初対面の自己紹介、買い物、飲食店での注文など、日常生活における基本的なコミュニケーションができるようになる。」ことを目標とする。授業は週2回開講する。	
	初級韓国朝鮮語B	「初級韓国朝鮮語A」に引き続き、本授業では、初級韓国・朝鮮語の文法と語彙に関する知識を身に付け、これをもとに実践的な運用能力を獲得することを目指す。具体的には、「(1)よく使われる表現と言い回しを勉強し、案内文など、日常生活で接する生活文や短めの実用文が理解できるようになる。また、身近な話題なら簡単な文章が書けるようになる。(2)様々なテーマに関するタスクを通して、宿泊・公演の予約や電話でのやりとりなど、状況・場面に応じて適切なコミュニケーションができるようになる。(3)ハングル検定試験4級やTOPIK2級に合格できるようになる。」ことを目標とする。授業は週2回開講する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門外国語科目	第1類	実践韓国朝鮮語 I A	本授業では、韓国語の文字と発音、初級レベルの韓国・朝鮮語の文法と語彙について学習し、「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の諸領域における様々な応用練習を行う。これを通じて、「(1)自分や他人の紹介、飲食店での注文など、日常生活における基本的なコミュニケーションができるようになる。(2)自分と身近な人に関する情報、あるいはすぐ周りの具体的なものやことについて、聞き慣れた語や表現を聞き取れるようになる。(3)身近な話題についての平易な生活文を理解でき、簡単な作文ができるようになる。」ことを目標とする。
		実践韓国朝鮮語 I B	「実践韓国朝鮮語 I A」に引き続き、本授業では、初級レベルの韓国・朝鮮語の文法表現と語彙について学習し、「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の諸領域における様々な応用練習を行う。これを通じて、「(1)日常生活の様々な状況で、身近な話題について話し合いができ、必要な情報のやり取りが可能になる。(2)自分と関連した領域で、頻繁に使われる表現を理解し、メッセージの要点を聞き取れる。(3)案内文や予定表など、短い簡単なテキストの理解ができ、必要な事柄なら、簡単なメモやメッセージが書けるようになる。」ことを目標とする。
	総合英語 II	本授業では、「総合英語 I A・I B」の履修で到達した英語力のレベルを維持し、流暢さを向上させる、つまり以前より楽に4技能（聞く、話す、読む、書く）を運用できるようになることを目標とする。したがって、教材は「総合英語 I A・I B」で使用したものを選択的に再利用し、「総合英語 I A・I B」と類似した活動を行う。ただし、全く同じ活動であれば以前より短時間で終了するはずなので、進行を早める、関連する教材を追加して内容を深める、新しいタスクを課す等、授業活動を高度化する。また、文法と発音については、意味の伝達に支障を来たすエラーに限って指導し、語彙については類義語間の意味や用法の違いを必要に応じて取り上げる。授業は週2回開講する。	
	英語ライティングセミナー	受講者は、英語圏の教育機関で一般的に指導される作文の型を知り、それに従って内容を組み立て、英語で文章を書くというプロセス、実践を通して学習する。学ぶ作文の型は、具体物の描写、時系列に従った説明、手順の説明、因果関係の説明、共通点と相違点の提示、根拠に基づく意見表明、の6つである。まず例示される作文を読み、その構成を分析したうえで、類似のテーマで受講者が内容を構想して文章化し、さらに修正して完成させる、というステップを踏む。これをすべて、グループワークを通して行う。本授業では、受講者同士でアイディアを出し合うことにより、分析力及び表現力を向上させることを目標とする。	
第2類	英語プレゼンテーションセミナー	本授業は、英語技能5領域のうち「発表」に特化し、聴衆の前に立って英語で何かを説明して伝える能力を向上させることを目的とする。分かりやすい発表を作るには、説明の順番や、説明に使う言葉、説明で提示する資料など、様々な工夫が必要である。また、発表時の立ち方や視線、表情、声の出し方や話すスピードなども、伝わり方に影響を与える。さらに聞き手から反応があることも重要である。これらを、ペアやグループ活動なども交えながら段階的な実践を通して学習する。受講者は、自身が発表するだけでなく、他者の発表を聞いて質問し、事後に改善点を指摘し合うことにより、よりよい発表者及び聞き手になることを目標とする。	
	英語で学ぶ時事問題	本授業では、日々英語で配信される国内外のニュース記事やニュース映像を題材とし、実際に起きていることを英語で学びながら、英語で理解し表現できる内容を増やすことを目的とする。題材は、まず日本国内のニュースから始め、徐々に国外に広げる。また使用される英語のレベルも、難易度が抑えられている学習者向けのものから始め、最終的には一般向けに発信されたニュースを理解できるようになることを目標とする。記事を読む場合も映像を視聴する場合も、日本語には極力頼らず、難解な表現は教員が易しい英語で言い換えることで理解を助ける。また受講者は理解できた内容を英語で要約し、意見を述べるなどのアウトプットも行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門外国語科目 第2類	英語で学ぶ日本の社会と文化	本授業の目的は、文化の様々な側面について英語で学ぶことにより、文化に関する知識と英語力を同時に向上させることである。テーマは、「日本の社会と文化」である。受講者は、英語で講義を聞き、資料を読むことを通して、学術的な英語に慣れ、さらに理解できたことを英語で書いたり話したりする活動を通して、知的英語力を伸ばすことが期待される。そのため授業では、受講者が質問に答えたり、発表したり、議論したりなど英語で話す時間を設けるとともに、英語で書いて説明する課題や試験を課すことにする。本授業では、「日本の社会と文化」の諸問題を理解したうえで、英語で自分の考えを説明できるようになることを目標とする。	
	ビジネス英語	会社の業務で用いられるコミュニケーションは、日常生活や大学でのコミュニケーションと共通する部分もありながら、特殊性を帯びている部分もある。本授業では、英語で業務を行う状況において口頭及び文書で使用される表現と、コミュニケーションの展開の仕方を、いくつかの事例を通して学ぶ。具体的には、顧客や取引先との電話やメール、スケジュール管理、求人広告や履歴書、会社概要や業務内容の説明、提案書や業務報告書などを取り上げ、何ができるかを理解したうえで、受講者自身が類似のものを試行的に作成することを通して、卒業後の必要性に備えることを目標とする。	
	日英翻訳実践	英語から日本語への翻訳実践を通して、翻訳における注意点について考えていく。具体的には、翻訳に役立つツールの使い方、単語のニュアンスをつかんで訳す方法、品詞を転換して訳す方法、長文の訳し方（分詞構文、関係詞構文、同格構文、挿入構文、複々文）、順送りと逆送りの訳し方などについて、英文を実際に訳しながら英語から日本語への翻訳の基礎について学ぶ。授業はグループディスカッションを毎回取り入れ、意見交換の仕方や協働作業の進め方についても学んでいく。本授業においては、翻訳の基礎を理解するとともに、翻訳の実践的な知識を社会生活における言語活動に応用できるようになることを目標とする。	
	英語検定試験研究	本授業では、実用英語技能検定準1級、TOEIC Listening & Reading及びTOEFL iBTで過去に出題された問題を分析し、受験を予定している受講生を支援する。具体的には、どのような形式で出題されるか、解答する時のコツは何か、試験に対応できるようになるためにはどのような勉強が必要か、などを学び、自分で受験のための準備や工夫を続けられるようになることを目標とする。受講者の希望に従い、扱う試験を特定の一つに限定することや、別の試験を追加することも可能である。開講時の英語力が低いと支援の効果が出にくいので、CEFR B2（中級の上位）に達している状態での受講開始を勧める。	
	中級中国語A	中級レベルの中国語を学ぶ。1年生で学んだ初級レベルの中国語の定着を図り、中国語の文を正しい声調、発音で読む練習も続ける。テキストの長文読解を通じて、正しい文法理解に基づいた読解力の向上を目指す。中級レベルの文章を、正しく表現できるよう、作文練習も積極的に行う。中国語検定で言えば3級レベルの理解を目指す。本授業では、(1)中国語の文章を、抑揚をつけながら、正しく音読することができる、(2)中国語の文の構造をつかんで、その意味を日本語で言うことができる、(3)文法事項に即して、少し複雑な中国語表現ができる、ことを目標とする。授業は週2回開講する。	
	中級中国語B	中級レベルの中国語を学ぶ。「中級中国語A」に引き続き、これまでに学んだ発音や基礎的な文法事項、語彙を定着させながら、新しい語彙や、応用的な文法事項を学んでいく。ネイティブレベルの発音ができるよう、高度な発音練習を行う。少し複雑な長文の読解及び作文練習も続ける。中国語検定で言えば3級レベルの達成を目指す。本授業では、(1)中国語音を正しく発音し、簡単な語や文を書き取ることができる、(2)中国語の簡単な文章を読んだり聴いたりして、理解することができるようになる、(3)日常会話ができるようになる、ことを目標とする。授業は週2回開講する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門外国語科目 第2類	実践中国語ⅡA	中級レベルの中国語を、コミュニケーションに特化して学ぶ。「中級中国語A」や「中国語圏の言語と文化」と関連させながら、より複雑な読解力と表現力の養成を目指す。比較的長い文章を、抑揚をつけて発音する練習を行う。正しい文法知識に基づいた、中国語の表現方法についても学ぶ。辞書や各種工具書を用いて、中国・中華圏の情報に直接アクセスできるように、実践力を養う訓練も行う。中国語検定で言えば3級レベル以上の理解を目指す。本授業は、(1)中国語の文章を、抑揚をつけながら正しく音読できる、(2)文法事項に則して、複雑な中国語が理解できる、(3)辞書や工具書の利用方法を体得する、ことを目標とする。	
	実践中国語ⅡB	中級レベルの中国語を、コミュニケーションに特化して学ぶ。「実践中国語ⅡA」に引き続き、中級レベル相当の読解力と表現力の養成を目指す。また、「中級中国語B」や「中国語圏文化論」と関連させながら、より実践的な中国語理解を目指す。実際のシーンを想定しながら、比較的複雑な文章を聴き、話すことができるよう訓練を続ける。辞書的な理解のみならず、文化的、歴史的背景への理解も進める。中国語検定で言えば3級合格以上を目標とする。本授業では、(1)中国語の文章を、抑揚をつけながら正しく音読できる、(2)辞書や工具書の利用方法を体得する、(3)文法事項に則して、複雑な中国語が理解できる、ことを目標とする。	
	上級中国語A	上級レベルの中国語を学ぶ。比較的難解な文章を読解することで、中国語の総合的な能力を高める。中国・中華圏で出版されたテキストを使用し、正しい発音で文章を読む練習をしたうえで、正しい文法理解に基づいた読解訓練を行う。口語表現や文語表現が混ざった文章にも挑戦し、それらの表現を用いた文章を作ったり、暗誦したりする。中国語検定試験で言えば2級レベルの理解度を目指す。本授業では、(1)中国語の比較的高い読解力を習得する、(2)複雑なコミュニケーション能力を会得する、(3)複雑な表現力を身に付ける、ことを目標とする。	
	上級中国語B	上級レベルの中国語を学ぶ。「上級中国語A」に引き続き、比較的難解な文章の読解を通じて、高度な中国語能力を身に付ける。中国・中華圏で出版されたテキストを使用し、中国の文化、社会、習慣などの知識を深めつつ、正しい発音で文章を読む練習をして、これまで学んできた文法を駆使して日本語訳をする。口語表現や文語表現が混ざった表現を理解し、またそれらを用いた文章を作ったり、暗誦したりする。中国語検定試験で言えば2級レベルの達成を目指す。本授業では、(1)中国語の比較的高い読解力を習得する、(2)複雑なコミュニケーション能力を会得する、(3)複雑な表現力を身に付ける、ことを目標とする。	
	実践中国語ⅢA	上級レベルの中国語コミュニケーションを学ぶ。「上級中国語A」と関連させながら、複雑な中国語表現を学び、中国語の総合的な能力を高める。長文を正しく読解する能力を身に付け、複雑な会話能力の向上を目指す。また、あるテーマを決めたうえで、中国語で作文し、スピーチをする訓練を行う。本授業を通じて、(1)比較的長い中国語の文章を、ピンインなしで正確に発音すること、(2)中国語の文章の意味を、文化的、社会的背景に基づいたうえで、正確に理解すること、(3)自分の考えを、正確に中国語で表現すること、ができるようになることを目標とする。	
	実践中国語ⅢB	上級レベルの中国語コミュニケーションを学ぶ。「実践中国語ⅢA」に引き続き、比較的長い文章の読解訓練とスピーチの練習を通じて、中国語の総合的な能力を高める。「上級中国語B」と関連させながら、正しい発音で文章を読む練習をし、これまで学んできた文法を駆使して日本語訳をする。また、テーマを決め、中国・中華圏の事柄について調査・考察したうえで、口頭発表の訓練を行う。本授業を通じて、(1)比較的長い文章を、ピンインなしで正しい発音で話すこと、(2)中国・中華圏についての認識を深め、中国語を用いて必要な情報を得ること、(3)自分の考えを正しい中国語で表現すること、ができるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門外国語科目 第2類	中級韓国朝鮮語A	本授業では、中級レベルの韓国・朝鮮語の文法表現及び語彙について体系的な学習を行う。また、各セッションで与えられたテーマに関して韓国語で発表する。これを通じて「(1)状況・場面に応じて適切な対処ができるコミュニケーション能力を身に付ける。(2)関心のあるテーマなら、関連したテキストの読解や筋の通った簡単な作文ができるようになる。(3)公式的な場面で使われるフォーマルな言い方と日常会話で使われる打ち解けた言い方を使い分けて使用できる。(4)ハングル検定試験やTOPIKの3級に合格できるようになる。」ことを目標とする。なお、現代韓国の社会や文化への理解を深めるために多様な資料を紹介する。授業は週2回開講する。	
	中級韓国朝鮮語B	「中級韓国朝鮮語A」に引き続き、本授業では、中級レベルの韓国・朝鮮語の文法表現及び語彙を体系的に学習し、より高度なテキストを用いた様々な応用練習を行う。また、グループ別に自由にテーマを決めてプロジェクト発表を行う。これを通じて、「(1)普段出会うような大抵の事態に対処することができるコミュニケーション能力を身に付ける。(2)辞書があればより複雑な文章の読解や作文ができる理解・表現能力を養う。(3)ハングル検定試験3級やTOPIK3級に合格できるようになる。」ことを目標とする。なお、現代韓国の社会や文化に関する理解を深めるために多様な資料を紹介する。授業は週2回開講する。	
	実践韓国朝鮮語II A	本授業では、中級レベルの韓国・朝鮮語の文法表現及び語彙について学習し、実際の意思疎通で使用できるよう、ロールプレイや聞き取り練習、読解や作文練習などの様々な応用練習を編成する。具体的には、「(1)日常生活の身近な場面において、必要な手続きや簡単な依頼・伝言ができるようになる。(2)普段出会うような身近な話題について、明確で標準的な話し方なら要点を聞き取れるようになる。(3)日常的な話題や自分と直接関連するテーマに関するテキストならその内容をほぼ把握できるようになる。(4)身近な話題や個人的な関心事について簡単な作文ができるようになる。」ことを目標とする。	
	実践韓国朝鮮語II B	「実践韓国朝鮮語II A」に引き続き、本授業では、中級レベルの韓国・朝鮮語の文法表現及び語彙について学習し、「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の諸領域における様々なタスクを行う。具体的には、「(1)身近ないろいろな話題に関して韓国語で比較的自由に話せるようになる。(2)自然な会話や簡単なニュースなどを聞いて、主な内容をほぼ聞き取れ、そのあらすじを韓国語で説明できるようになる。(3)論説や説明文、文学作品など、より高度なテキストが読めるようになる。(4)幅広い話題について筋の通った作文ができるようになる。」ことを目標とする。	
	上級韓国朝鮮語A	本授業では、上級レベルの韓国・朝鮮語の文法表現及び語彙を学習し、各セッションで与えられたテーマに合わせて様々な応用練習を行う。これを通じて、「(1)抽象的な話題や自分の専門分野について母語話者と普通にコミュニケーションできるようになる。(2)幅広いテーマについて書かれた実用文、新聞や雑誌の記事、平易な論説などが理解できる読解力や自分の意見を明確な文章で表現できる作文能力を身に付ける。(3)頻繁に使われる慣用句や四字熟語などを学び、朝鮮半島の文化や社会に関する理解を深める。(4)ハングル検定試験準2級以上やTOPIK4級以上に合格できるようになる。」ことを目標とする。	
	上級韓国朝鮮語B	本授業では、「上級韓国朝鮮語A」で学んだ文法や語彙に関する諸知識をさらに発展させ、各セッションのテーマに合わせて様々なタスクを実施する。また、グループ別に自由にテーマを決めてプロジェクト発表を行う。これを通じて、「(1)政治・経済・社会・文化などの全般的なテーマにおいて、身近でないテーマについても不便なくやり取りできる。(2)現地の大学・大学院・研究所に正規留学した場合に、講義内容が十分に理解できるような聴解力、書籍・資料を読み込める読解力、あるいはレポートや論文を執筆できる文章表現力を養う。(3)ハングル検定試験準2級以上やTOPIK4級以上に合格できるようになる。」ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際学部国際教養学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門外国語科目 第2類	実践韓国朝鮮語ⅢA	本授業は、現代韓国・朝鮮語の文献を精読し、文法的事項を正確に把握したうえで、適切な日本語に翻訳して理解する読解力の向上を目標とする。また、適切な読解のために必要とされる日韓両国における言語的、文化的差異などに関する予備知識の習得にも力を入れる。本授業では、毎回、異なる文体の韓国・朝鮮語の原文を受講者と議論しながら読み進める。本授業を履修することで、現代韓国・朝鮮語を文体の違いにかかわらず正確に読解し、かつ日本語話者に適切に通訳・解説できる実践的力を身に付けることを目標とする。なお、本授業は受講者からの質疑を取り入れた双方向的な授業形式をとる。	
	実践韓国朝鮮語ⅢB	本授業は、現代韓国・朝鮮語の文献とその和訳版を比較購読することを通じて、そこに現れる翻訳上の困難や問題を見つけ出し、それを克服する方法・技術について探求することを目指す。本授業では、既に和訳版が出版されている現代韓国・朝鮮語のテキストを材料として、韓国・朝鮮語の原文と日本語の翻訳を比較検討したうえで、そこに現れる問題点を受講者とともに発見し、議論したうえで、その問題点や解決策を探る。本授業の履修を通じて、受講者、現代韓国・朝鮮語を日本語に翻訳する課程での注意点について十分な知識を持ち、かつ洗練された翻訳文を作成する能力を身に付けることを目標とする。	
専門科目 第1類（言語と多文化共生）	日本語のしくみ	本授業では、日常の身近な言語現象を取り上げ、現代日本語の仕組みや特徴への理解を深める。具体的には、日本語の仕組みについて基礎的な知識を学び、それらを手がかりにして日本語を分析する力を身に付ける。また、日本語の言語的成り立ちや他の言語・社会との関わりなどから「日本語はどのような言語か」について考える。本授業では、（1）現代日本語の仕組みについて基礎的な概念を理解し、それらを用いて体系的に分析したり説明したりすることができる、（2）普段無意識に使っている日本語を相対的に捉え、分析的・論理的に考える態度を身に付ける、ことを目標とする。	
	日本語学Ⅰ	本授業では、日本語の音の仕組みについて基礎的な知識を学ぶ。具体的には、日本語の音声・音韻、モーラとリズム、アクセント、イントネーションを取り上げ、日本語音声の主な特徴を考察する。日本語の音声現象や音韻構造に関する知識を受動的に覚えるのではなく、これまで学んできた外国語の音声と比較したり、積極的に自分の口を使って内省したりすることで「原理」を見つける活動を行う。本授業では、（1）日本語の音声現象や音韻構造に関する基礎的な知識を身に付ける、（2）その知識を用いて日本語の音声を体系的に分析・説明する力を身に付ける、ことを目標とする。	
	日本語学Ⅱ	本授業では、テンスやヴォイス、アスペクト、モダリティーなど、日本語文法の諸概念を取り上げ、日本語の仕組みに関する基礎的な知識を学ぶ。日本語を外側から客観的に眺めるために、日本語非母語話者の視点や様々な用例を積極的に用いて考察する。また、仲間と議論しながら日本語の仕組みを発見する活動を通して、普段無意識に使っている日本語を相対的に捉え、分析的・論理的に考える態度を身に付ける。本授業では、（1）文法に関わる事象についての知識・分析方法の基礎を現代日本語の言語事象から学び、実際に分析できるようになる、（2）文法に関わる言語事象を、日本語と他言語で対照的に分析・説明できるようになる、ことを目標とする。	
	異文化コミュニケーション論	本授業では、異文化コミュニケーションの基本的諸要素を学び、私たちはどのような状況で「異文化」を感じるのか、それはどのような「差異」か、そこにどのような意味付けがされているかなどを考えながら、異文化コミュニケーションとはどのような現象なのかについて考察する。異文化コミュニケーションの重要性を理解し、その理論及び実践での諸問題を知ることで、日常の様々な異文化空間で体験する不平等感や疎外感を学問的に分析し、その解決に向けて行動できるようになるための素地を形成することを目標とする。授業は講義形式で実施するが、アクティブラーニングの手法を取り入れ、主体性と協働性を高め、より深い思考を促進する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第1類 (言語と多文化共生) 専門科目	比較文化論	本授業では、比較文化のアプローチを用い、日本人の一生の流れを中心として、日本の歴史や民俗を明らかにするとともに、さらに欧米などの他の文化との比較を通じ、「生死」とは一体何かという問題を考察する。そこで生まれてから死ぬまで、我々の人生の節目を区切る様々な行事や儀礼に目を向ける。本授業においては、従来の研究の中でなされてきた先学の成果を振り返り、「通過儀礼」をキーワードとして、現代の社会変化を背景に、「生老病死」に関わる諸問題に注目しながら、人間の生き方について再検討したうえ、自他の死生観を意識するようになることを目標とする。講義形式で実施する。	
	ジェンダーと言語	ジェンダーに関する諸問題を整理し、特に言語（日本語と英語）とジェンダーとの関係について考察をする。具体的には、社会におけるジェンダーの問題を知り、男女の言葉の歴史や特徴、思考との関係についての理解を深め、小説やSNSなどのメディアの中の言語使用の分析を通して、その言語使用と私たちの思考や社会への影響について考えていく。授業は講義形式で実施するが、グループディスカッションを多く取り入れ、論理的思考能力と言語表現力を養い、意見交換の仕方や協働作業の進め方などについても学ぶ。本授業においては、ジェンダーの諸問題について理解し、その知識を社会生活に役立てられるようになることを目標とする。	
	モノと宗教	21世紀には、科学技術は更なる発展を遂げるものと期待される。日本社会はますます消費社会となり、科学技術は多くの「モノ」を与えてくれる。しかし近年の急速な社会変動の中、「モノ」の価値や意義が必ずしも明確ではなくなっているように思われる。人間に作られた「モノ」に対して人々は何を求めめるのか。この問題を解くため、願いが顕在する、あるいは潜在する様々な「モノ」の形態や機能を紹介しながら、日本の「モノの見方」について概観する。本授業を通して、日本に見られる宗教的物質文化の受け入れに関する理解を深めることを目標とする。講義形式で実施する。	
	社会言語学	言語を眺める視点として、「言葉そのもの」を問題にし、構造や規則を重視するものと、「社会の中で使われる言葉」を問題にし、言葉と社会の関わりや使われ方に注目するものがある。本授業では、後者の立場で言語や言語行動を社会との関わりの中で捉え、言語がどのように使われているかに注目する。身近な言語現象を取り上げ、その背後にある社会、文化、アイデンティティなどについて考えながら、ことばの使われ方への理解を深める。本授業においては、こうした社会言語学の基本知識を身に付け、言語の多様性が社会と密接に関係していることを理解することを目標とする。	
	共生言語学	本授業は、グローバル化や外国人受け入れ拡大という社会状況の中で、多言語多文化共生を目指すコミュニケーションとは何かを追求していく。具体的には、日本語母語話者と日本語非母語話者の接触場面における言語使用のあり方や、言語文化を異にする者同士の物事の捉え方やコミュニケーション方略について、また地域社会の共通語としてのやさしい日本語について、実際の事例をもとに学ぶ。また、受講生は自分自身が日本語非母語話者と展開した会話を分析していく。本授業では、自身の発話に意識的になり、相手に応じて自身の発話をコントロールできるようになることを目標とする。	
	比較言語論 I	英語から日本語への翻訳を題材として、翻訳学について学び、異文化理解について考える。具体的には、「原文と同じ」とはどういうことか、外国らしさをどう訳すか、聖書や植民地、女性はどう訳されてきたかといったテーマについて考察をしていく。授業は講義形式で実施するが、グループディスカッションを多く取り入れ、論理的思考能力と言語表現力を養い、意見交換の仕方や協働作業の進め方などについても学んでいく。本授業においては、翻訳学の研究対象、主要な議論と研究方法について理解すること及びそれらの知識を社会生活における異文化理解に応用できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第1類 （言語と多文化共生） 専門科目	比較言語論Ⅱ	本授業では、現代日本語と現代韓国・朝鮮語の対照研究について概説し、音韻・語彙・統語レベルにわたって、日韓の両言語間に存在する共通性と個別性を説明できるようになることを目標とする。音韻体系、漢字音、助詞、ヴォイス、待遇法などの様々なテーマについて考察した後、応用課題を通じて理解を深める。概念や言語理論についての学習は、教員主導の講義で進めるが、授業を受ける前に、毎回テキストの指定された部分の要約レポートやコメントを提出する必要がある。受講者としては韓国・朝鮮語について中・上級レベルの基本知識を有している人を想定している。	
	言語習得論	本授業では、外国語（第二言語）の習得過程に関する研究知見を通して、外国語授業や外国語学習の望ましいあり方を考察する。まず外国語の習得に影響を与える要因として、母語との違い、学習者の適性や性格、動機付けや学習開始年齢などを取り上げ、それらがどう影響するかの研究知見を学ぶ。さらに、教室での教員と学習者のやり取りや、様々な指導法の有効性に関する研究知見を学ぶ。受講者は、(1)講義で紹介される研究知見の概要を整理して説明できること、そしてそれに基づき、(2)自身の外国語学習を振り返り、取り組み方の改善に活かすことができること、を目標とする。	
	言語政策論	本授業では、世界の様々な社会における言語政策について学び、言語と社会に関する諸問題を考察する。言語政策は、歴史的・社会的な状況を背負いながら様々な利害が衝突する中で実施される、強いイデオロギー性を帯びた政治行為であり、その実施主体は「国家」に限らない。本授業では、日本、ヨーロッパ、そしてアフリカ諸国における言語政策を、言語使用、言語態度、歴史背景、政治経済的影響などから考え、(1)言語と社会の関係について理解し、(2)言語政策や言語教育に見られる様々な課題について基礎的な知識を得、(3)超多様性の時代の「選択する話者」による「ことばの変化」に対する理解を深める、ことを目標とする。	
	言語とテクノロジー	コンピュータの処理能力や機械学習能力の発達により、ことばについて調べることが以前より手軽にできるようになった一方で、調べた結果を慎重に見極めずに安易に利用することには危険も伴う。本授業では、コンピュータの発達が言語研究にどのように貢献してきたかを講義で学んだうえで、データベースや自動翻訳機能を実際に使いながら、その仕組みや特徴を具体的、実践的に理解すると同時に、検索や自動翻訳は万能ではなく、不十分な情報や間違った情報を提供することもあることを学ぶ。受講者は本授業を通して、テクノロジーを適切に使うことができる学習者になることを目標とする。	
	Topics in Japanese Linguistics	本授業では、日本語の成り立ちや特徴を、英語圏の大学生向けに書かれた入門書を通して学び、日本語に対する客観的理解を深めるとともに、受講者自身も日本語について英語で説明できるようになることを目標とする。題材は、日本語の歴史、方言、発音と文字体系、単語の種類と構造、文構造、時制、文と文の接続、対人配慮など、日本語学の入門講義で一般的に扱われるものから選ぶ。理解を助けるために、教科書の内容を噛み砕いた英語講義を教員が準備する。受講者はそれを聞いた後に教科書を読み、最後に英語で説明する課題に取り組む。本授業は英語で実施する。	
	Topics in Japanese Culture	1990年代に『美少女戦士セーラームーン』のファンが実在する神社を「聖地」として訪れたことが、ポピュラーカルチャーにおける「聖地巡礼」の始まりと言われ、それはその後さらに増えていく。本授業では、従来の宗教的な巡礼を説明したうえで、ファン活動に焦点を当て、そこで見られるツーリズムとの関係、スピリチュアリティの問題、コミュニケーションの変化などを、主に民俗学の視点から考察する。受講者にとって身近な日本文化の話題を、民俗学の基本概念や研究方法を使って分析し、ポピュラーカルチャーにおける「聖地巡礼」の社会・文化的意味と意義を理解することを目標とする。本授業は英語で実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第1類 （言語と多文化共生） 専 門 科 目	World Englishes	本授業では、英語がその普及された土地の言語や文化の影響を受けて発展し、多様化していることを肯定的に捉えるWorld Englishesの考え方を学ぶ。本授業では、(1)「英語」に関する無自覚なイデオロギーへの自覚化によって、それと一定の距離を取ることができるようになること、(2)「自分自身の英語」への肯定感を高めること、(3)多様性を尊重してコミュニケーションを取ろうとする姿勢を持つことができるようになること、を目標とする。講義形式で実施するが、グループディスカッションやグループ発表を多く取り入れ、論理的思考能力を養うとともに、他者と協働する能動的な学びを行う。本授業は英語で実施する。	
	World Religions	本授業においては、キリスト教やイスラム教やヒンドゥー教などという世界宗教を対象として取り上げ、それぞれの宗教の教義と教典を説明したうえで、人間が実際に宗教を生活に応用する姿に焦点をあてて考察する。電子メディアを活用して「生きている宗教」を紹介しながら、色々な文化の日常的・非日常的な「場」に注目して、時間や交際や食文化などを、宗教学・宗教人類学のアプローチから明らかにする。本授業では、(1)世界の宗教の相違点と共通点を説明できること、(2)世界の宗教と人々の日常生活の関係を説明できること、(3)日本の伝統的な宗教観の特徴を説明できること、を目標とする。本授業は英語で実施する。	
	Popular Culture Studies	漫画やアニメ、デジタルゲームなどを代表とする日本発祥のポピュラーカルチャー（大衆文化）は、世界各地で人気を集めている。本授業ではこの事実を客観視し理解を深めるために、ポピュラーカルチャーの社会的・文化的な機能や役割などを考えながら、受け入れられ方の多様性を把握する。本授業での学習を通じて、(1)ポピュラーカルチャーの社会的・文化的な機能や役割を説明できること、(2)ポピュラーカルチャーの受け入れられ方の多様性を説明できること、(3)ポピュラーカルチャーの意義と価値を新たに言い出すことができること、の3点を目標とする。本授業は英語で実施する。	
	Understanding Multiculturalism	本授業は「多文化リテラシー」能力の獲得の支援を目的とする。主要なトピックは、既存の民族、集団的アイデンティティ、そして伝統文化をグローバルな波の中でバランスよく維持することは可能なのかである。毎回の講義トピックに関連して、受講生は文化背景の異なる人々が共生するために必要な工夫について具体的に考えることを求められる。本授業では英語で講義が行われ、付随して英語でのディスカッションも実施される。受講生は講義内容を自分なりに理解し、自分が考えることを口頭や文章で他者に伝えることにより、多文化的な感覚を備えた対人コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	
	中国語圏の言語と文化	中国・中国語圏の言語、文化に関して、いくつかのトピックを取り上げ、社会的、歴史的背景とともに基礎的な理解を深める。文学作品、思想書、映画、絵画などを幅広く取り上げ、中国文化の面白さがどこにあるのか、受講生との議論を通じて模索する。また、中国文化が日本及び東アジアに与えた影響にも着目する。本授業を通じて、(1)中国・中国語圏の言語・文化について、基礎的知識を身に付ける、(2)東アジアにおける中国文化のあり方について、客観的に見つめる視点を持つ、(3)中国文化に関するいくつかのテーマについて、自分の意見を持ち、表現できることを目標とする。	
第2類 （東アジア研究）	中国語圏文化論	中国・中国語圏の言語や文化を対象として、いくつかのトピックについて、具体的な文献に沿って理解を深める。具体的には、小説や散文などの文学作品に基づいて、事前に指定の作品一篇（日本語のあるもの）を読んだうえで、受講生同士で議論をしながら考察を加える。作品内の理解のみならず、歴史的、文化的背景を視野に入れて議論を進める。本授業では、(1)中国・中国語圏の歴史について、基礎的知識を身に付ける、(2)文学作品の備える意味を、当時の社会的文脈に添って理解する、(3)中国・中国語圏を対象としたいくつかのテーマについて、自分の意見を持ち、表現できる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第2類 (東アジア研究) 専門科目	近現代中国の歴史と社会	現在の中国を取り巻く社会問題にいかなるものがあるのか、またその歴史的背景がいかなるものなのか基礎的な事項を学ぶ。主に19世紀末から現在までの中国を対象に、歴史の流れを把握するとともに、現在にまで通ずる社会問題について概観する。大陸中国だけではなく、台湾、香港及び各国の華僑社会などにも視野を広げる。本授業では、(1)近現代中国の歴史、社会について基礎的な知識を習得すること、(2)東アジアにおける中国の政治的位置を、客観的に把握することができること、(3)中国を巡るいくつかの社会問題について、自分の意見を持つことができるようになること、を目標とする。	
	現代中国の諸問題	現代中国を取り巻く社会問題について、歴史的文脈に基づきながら幅広く学ぶ。例えば、地域格差の問題、少数民族問題、台湾・香港問題及び西側諸国との覇権争いの問題などについて、最新の知見を加味しながら議論を進める。日本と中国との関係性にも着目し、グローバルな視点から今後の日中関係について理解を深める。本授業では、(1)中国を巡るいくつかのトピックについて、幅広い視野に基づいて理解を深めること、(2)中国と日本との関係について、客観的な視点に基づいた議論ができること、(3)中国の社会問題のいくつかのテーマについて、自分の意見を持つことができるようになること、を目標とする。	
	東西文明交流Ⅰ	欧米と東アジアはそれぞれ古代以来特有の特徴を生み出し、別の文化圏を形成してきたが、その過程で繰り返しお互いに大きな影響を与えた。本授業では、近現代史に重点を置きながら、西洋と東洋の文化圏の発展及びお互いの接点を考察する。本授業では西洋の歴史に焦点を置き、どのように文化圏を形成してきたかを考察しながら、その過程で東洋にどのような影響を与えたか、どのような影響を受けたかに注目する。本授業は西洋の歴史の基礎的な知識を身に付けること、そして東洋からどのような影響を与えたかを理解することを目標とする。本授業は講義形式で実施する。	
	東西文明交流Ⅱ	本授業では、「東西文明交流Ⅰ」に引き続き近現代史に重点を置きながら、西洋と東洋の文化圏の発展及びお互いの接点を考察する。本授業では「東西文明交流Ⅰ」と対照的に、東洋の文明史に軸足を置き、東洋文化圏がどのように形成されたかを考察しながら、西洋との交流関係に注目する。加えていくつかの具体的な東西交流の事例を選び、解説する。本授業は東洋の歴史の基礎的な知識を身に付けること、そして西洋からどのような影響を受けたかを理解することを目標とする。「東西文明交流Ⅰ」と本授業を両方履修することで、受講生は東洋と西洋の現状とその歴史的背景をバランスよく把握することができる。本授業は講義形式で実施する。	
	朝鮮半島の文化と歴史Ⅰ	本授業では朝鮮半島の古代から19世紀末までの朝鮮半島の歴史を概観し、その政治的、文化的、社会的特徴について基礎的な理解を養う。その際、朝鮮半島と周辺諸国との歴史的な関係についても留意し、朝鮮半島の歴史をより幅広い東アジアやグローバルな枠組みにおいて位置付け理解する視点を身に付ける。本授業を履修することで、20世紀以前の朝鮮半島の歴史に関する基礎的な知識を身に付けること及び朝鮮半島の民族・文化的特質について十分な理解を踏まえたうえで、朝鮮半島に関する一般向けの書籍やメディア報道を十分に読解する能力を養うことを目標とする。	
	朝鮮半島の文化と歴史Ⅱ	本授業では朝鮮半島の20世紀から今日に至るまでの歴史を概観する。授業の前半では主に日本の植民地統治期、後半では南北朝鮮の分断に重点を置き、この時期に生じた出来事が、その後の朝鮮半島の政治、社会、文化をどのように規定してきたのか、また日本をはじめとする周辺国との関係にどのように影響してきたのかについて、一般向けの書籍やメディア報道も読み解きながら、基礎的な知識を養う。そして、この知識を基盤として、今日の朝鮮半島を巡る諸問題が、現在の自分の生きる社会や自分の生活とどのような関連性を有するのかを新たに見つけ出すことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第2類 (東アジア研究) 専門科目	東アジアと植民地支配	帝国時代の日本による東アジア地域への植民地支配とその「清算」の問題について理解を深める。具体的には、まずは世界史的な観点から、日本を含む列強諸国が植民地獲得競争に突き進んでいった背景を確認したうえで、後発帝国としての日本の植民地支配の実践及び特に太平洋戦争期の総動員体制が植民地住民とその出身者に与えた影響について学ぶ。加えて、植民地支配の問題に対して、戦後の日本がどのように向き合ってきたのか／向き合えなかったのか、さらに支配された側からどのようなまなざしを向けてこられたのかを学ぶ。講義を通して、日本のアジアとの向き合い方について振り返るための基礎知識を身に付けることを目標とする。	
	越境と移民	グローバル化と共に増加している、国境をまたぐ人の移動について学ぶ。具体的には、まずは人の移動の歴史について人類史的な観点から概観し、境界を越える移住が、その移住先の土地に与えてきた影響について考える。そのうえで今日的な移住の諸側面を把握する。すなわち、移住者がしばしば被る差別の問題やアイデンティティの変容の問題、また社会的、文化的交流やその結果としての文化の創造などを扱う。最後に、日本の「外国人」の受け入れ状況について、法制度的な側面を含めて考える。本授業では、学生が開かれた社会を構想していくために必要な知識と感受性を身に付けることを目標とする。	
	現代韓国の諸問題	今現在、韓国においてどのようなことが社会的な問題となっているのか、またその問題の背景について学ぶ。具体的には、ジェンダー問題を含むマイノリティ問題、経済格差の問題、学歴社会の問題、少子高齢化の問題、産業災害の頻発の問題、政治におけるイデオロギー対立の問題などを扱いながら、その背景と解決への取り組みについて紹介する。韓国の社会問題は、日本におけるそれと重なる部分が多い一方で、ときに、日本とは大きく異なる解決への取り組みを見せている。その共通性や差異を知ることで、日本社会の今を相対的に理解する力を身に付けることを目標とする。	
	社会的マイノリティと差別	日本における差別問題について学ぶ。具体的には女性差別、障がい者差別、外国人差別／人種差別／民族差別、沖縄差別、部落差別などを扱う。各々のトピックに関して、当事者目線から見る、その実態、歴史構造的な背景、問題を産出したり、隠蔽したり、あるいは放置したりしてきた「権力」作用、そして、解決への取り組みと課題について論じる。加えて、偏見や差別を巡る社会学や社会心理学の様々な分析を紹介する。講義を通して、学生一人一人が日々生きる中で差別の場面に出会ったとき、それを敏感に察知し、また的確に抗っていく実践的な力を身に付けていくことを目標とする。	
	China in Global Context	国際的な視点から近現代における中国の歴史について学ぶ。諸外国との関わりの一つの重点を置きながら、主に清の末期以降の、中国の国民国家形成の過程に注目する。さらになぜ中華人民共和国が成立し台湾が大陸から分裂する事態に展開したか、その分裂以来それぞれがどのような道を歩んできたか、そして最近の情勢についても扱う。本授業は近現代史を通じて中国の現状とその背景、さらに中国が今世界の中で果たしている役割について理解し、中国が抱える複雑な問題を広い視野で考えられるようになることを目標とする。本授業は英語を用いた講義形式で実施する。	
	Two Koreas in Global Context	本授業では、1945年以降に朝鮮半島に出現した二つの政治勢力、いわゆる「ふたつのコリア」(Republic of Korea, Democratic People's Republic of Korea)の生成過程に注目し、それが当時の国際的な政治環境とどのような連関を有してきたかを概観する。本授業においては、広いグローバルの視野から、今日に至るまでの朝鮮半島の政治や社会の変動を理解するとともに、英語の文献・講義による学習を通じて、国際社会において朝鮮半島の諸問題がどのように理解され、また論じられているのかを把握することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第2類 (東アジア研究)	Contemporary Korean Culture	本授業では、朝鮮半島における現代の諸文化のうち、いわゆる「大衆文化」と称される歌謡、映画、メディア放送をはじめとするエンターテインメントの世界が歴史的にどのような経過を経て形成されてきたのかを概観する。朝鮮半島の大衆文化が世界各地に広がるという現象を現代的なものとして観察するのみならず、それが朝鮮半島の近現代史の中でどのような過程を経て発展してきたのかを歴史的、構造的に学ぶことで、グローバル化しつつある朝鮮半島（特に大韓民国）の大衆文化の特徴をより深く理解することを目標とする。本授業は英語を用いた講義形式で行う。	
	Japan in Global Context	本授業では、国際的な視点から近現代における日本の歴史について学ぶ。諸外国との関わりを一つの着目点にしなが、明治維新以降、日本が国家体制の改革や、不平等条約の改正や、植民地帝国の樹立や、第二次世界大戦の敗戦など、歴史上の大きな転換点を経て、どのように国民国家が形成されてきたかを考察する。本授業は、現在の日本が長きに渡る国際的な関係性の中で、様々な困難を乗り越えて作り上げられてきたことを理解し、今後の日本のあり方を考えることができるようになることを目標とする。本授業は英語を用いた講義形式で実施する。	
専門科目 第3類 (グローバルスタディーズ)	グローバル政治論 I	本授業は、20世紀から現代に至る国際政治に関する知見を深めることを目的とし、国際政治を分析するための理論的枠組みと、20世紀前半の歴史的展開に関する基本的知識を教授する。定評ある教科書を用いつつ、具体的には、20世紀の二つの世界大戦の内実と歴史的意義について、帝国主義、第一次世界大戦、ヴェルサイユ・ワシントン体制、ちょうつがい国家アメリカ、世界恐慌とファシズムの台頭、第二次世界大戦の勃発といった歴史的事象を通じて考察する。また本授業では、国際政治の分析手法の理解も併せて目標とする。講義形式で実施する。	
	グローバル政治論 II	本授業は、20世紀から現代に至る国際政治に関する知見を深めることを目的とし、国際政治を分析するための理論的枠組みと、20世紀後半の歴史的展開に関する基本的知識を教授する。定評ある教科書を用いつつ、「戦後世界」の形成過程を、具体的には、第二次世界大戦の戦後処理、原爆開発、冷戦の始まり、恐怖の均衡、植民地帝国の解体、国際連合の意義、欧州統合の進展、地域戦争と大国介入の「泥沼化」、冷戦の終結、グローバル化、テロとの戦争などの歴史的事象を通じて考察する。また本授業では、国際政治の分析手法の理解も併せて目標とする。講義形式で実施する。	
	ナショナリズム論	ナショナリズム (nationalism) について、諸々の理論を中心に、理解する。具体的には、ナショナリズムについて、それを人間にとって自明であり、遠い過去から存在するものとみなす素朴な原初主義的な見方を越えて、産業化や出版資本主義を発生 of 要因と見なすゲルナーやアンダーソンのような近代主義的アプローチを中心に紹介する。さらに、ナショナリズムの諸形態を巡る議論、排外主義的なナショナリズムをめぐる諸分析などを紹介する。講義を通して、ヘイトスピーチ問題など現在の日本で起きている排外主義をどのように乗り越えていくことができるかを学生が自分で考える手がかりを得ることを目標とする。	
	グローバリズムとナショナリズム	グローバル化した現代におけるナショナリズムについて考える。人、金、モノ、情報が国境を越えて、世界を巡るグローバル化が近年、著しく進んでいる。こうした事態はナショナリズムの存立の基盤を無化するものとみなすことができる。それにもかかわらず、この時代においても、ナショナリズムは過去のものとはなっていない。それどころか、例えばポピュリストの政治家によって一層、センセーショナルに煽られている局面も見られる。こうした現実について、特に日本と韓国を事例に、その背景や要因を探る。講義を通して、自民族/自国中心主義的な世界観から抜け出す手がかりをつかむことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第3類 (グローバルスタディーズ) 専門科目	会計の世界史	本授業は、ビジネスの共通言語である簿記・会計に関する理解を深めるために、様々な題材を考察し、会計が歴史的・地理的にどのように発達し、その役割や重要性が深化・発展してきたかを説明できるようになることを目標とする。具体的には、まず、絵画や小説の中に表現される貨幣や帳簿、商人の姿などを通して、簿記・会計がいかに出現し発達してきたかを理解する。また、一見、結びつかないような宗教の発展と商人との関係を取り上げ、宗教による利益概念の意識の違いやビジネス慣習への宗教の影響を考察する。次に、近現代の産業及びビジネスの発展が会計の役割や重要性をいかに深化・発展させたかについて考察する。	
	震災とリスクマネジメント	本授業は、(1)リスクマネジメントの必要性を理解し説明できるようになること、(2) 企業活動のグローバル化とともに直面する危機的状況(クライシス)をリスクとして発見しその対応に必要な基礎的な知識を修得すること、を目標とする。まず、ドラマや映画を題材に、リスクとは何か、人はどのようにリスクを予知・予防するのかを考察する。次に、企業活動のグローバル化とクライシスとの関係について考察する。特に、東日本大震災を題材としてグローバル・サプライチェーンの混乱など企業活動への直接的・間接的被害と、企業の復旧・復興過程を検証する。また、近年注目されているBCP /BCPの策定・実施について検討する。	
	グローバル経済Ⅰ	本授業では、貿易を通じたグローバル化がもたらす恩恵と、それが生み出す諸問題(格差、貧困、環境破壊、貿易紛争など)について学習し、今後の社会経済のあり方を考察することができるようになることを目標とする。まず、便利な日常生活がグローバル経済に依存していることを理解する。次に、グローバル経済に関連する用語(国際収支、為替相場、基軸通貨、海外投資、グローバル金融危機など)について学習する。これらの知識を踏まえ、日本の国際収支表を分析し、我国の経済発展が貿易を通じたグローバル化によって実現されたことを理解したうえで、グローバル経済が抱える諸問題を社会経済システムの中でどう解決できるかについて考える。	
	グローバル経済Ⅱ	本授業では、グローバル経済の本質や特徴を洞察するうえで必要となる理論的及び歴史的知識の修得を目標とする。具体的には、自由貿易が拠って立つ諸理論(比較生産費説と多角的貿易の理論)について学習する。また、人類史上初で、おそらくは不可逆的なグローバル化をもたらしたイギリスを中心とする貿易・決済の世界秩序=多角的貿易システム(multilateral trade system)の形成について学習する。また、1930年代の大恐慌期において、グローバル化が長期の停滞を余儀なくされた理由についても学ぶ。最後に、以上の学習を踏まえ、今後のグローバル経済の展開について考える。	
	開発と政治	本授業は、開発と政治に関する知見を深めることを目的として、20世紀の開発政治の思想と歴史に関する基本的知識を提供する。具体的には、定評あるテキストを通じて、20世紀の開発主義思想がどのような歴史的経緯を経て、世界に広まっていったのかを、ニューディール政策、ポイントフォア計画、近代化論、社会主義的近代化モデル、新国際経済秩序、ローマ・クラブ、南北対話、グローバリゼーションと構造調整などの事例を通じて考察する。本授業は、扱われる題材を通して開発政治の展開について考える。講義形式で実施するが、適宜グループワークを取り入れる。	
	平和論	本授業では、19世紀後半から現代に至る様々な戦争とその近代化が、日本を含めた世界に与えた影響について考察し、平和構築に関する基礎知識を教授する。具体的には、世界の平和思想や歴史に多大な影響を与えた諸戦争や事件(日露戦争、第一次世界大戦、第二次世界大戦、原爆開発と投下、冷戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争など)の内実とその影響を考察する。また戦争の民営化や、ショック・ドクトリン、戦争のロボット化、「鎖国論」などの比較的最近の事情も適宜紹介する。講義形式で実施するが、適宜グループワークを取り入れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第3類 (グローバルスタディーズ) 専門科目	グローバル・トピックス	本授業は、環境、食料、エネルギー、人口移動など、国境を越えて影響を持つ諸問題に関する知見を深めることを目的とし、これらの諸問題発生背景、特質などに関する基本的知識を提供する。具体的には、開発、環境、人口爆発、食料問題、エネルギー問題、紛争・難民問題などの時事問題を考察する。また書籍、論文、新聞記事などを通じて、政治や社会に関する情報を集め、分析し、またそれをまとめる方法についても適宜紹介する。本授業は、現代世界が直面するグローバルな問題の特質を理解できるようになることを目標とする。講義形式で実施するが、適宜グループワークを取り入れる。	
	グローバルビジネスと会計情報Ⅰ	会計はビジネスの共通言語であり、世界中の投資家をはじめ外部利害関係者は企業の会計情報を必要とする。本授業では、会計情報の基礎である英文簿記の仕組みを理解し、決算までの手続きと財務諸表を理解することができるようになることを目標とする。まず、簿記の仕組みと各国の会計制度に関する概論を学修する。次に、英文簿記（BATIC）の教材を用いて、英文会計の基礎的知識と仕訳及び簿記一巡を学ぶ。具体的には、例題を用いて実際に仕訳を行いながら、英文簿記特有の表示の仕方を理解するとともに、決算までの手続きを行うことができる初級程度の英文簿記（BATIC Entryレベル）と財務諸表の基礎的知識を修得する。	
	グローバルビジネスと会計情報Ⅱ	企業が同じ会計情報を利用しても、組織文化が異なれば、企業内部での意思決定は異なり、経営行動も変わる。本授業は、会計情報の企業内部での利用に着目し、欧米と日本の管理会計システムやその使い方の違いについて比較し、それが意思決定にどのような影響を与えるかを説明できるようになることを目標とする。具体的には、欧米企業に由来するコストマネジメントや管理会計システム（活動基準原価計算、バランスト・スコアカードなど）の特徴、日本の優れたコストマネジメントや管理会計システムとして欧米で紹介されている手法（JITシステム、アモーバ経営など）の特徴を通して、意思決定や業績評価がどのように変わるかを考察する。	
	International Relations I	本授業は、北米の大学の国際関係概論をモデルにした講義である。本授業のトピックは「国家」概念の歴史的变化、国際政治学の諸理論と哲学、国家以外の主体である個人、企業、NGO/NPO、国際機構の台頭などである。本授業は、講義とディスカッションを中心とし、半分程度を英語で行う。本授業の目標は、最初は難しいと感じるかも知れない国際関係論を英語で学び、英語での意見交換を継続的に行うことで、受講生が自分の力で政界情勢に関する英語のニュースや記事の内容を理解し、意見を形成して他者に伝えることができるようになることである。	
	International Relations II	「International Relations I」に引き続き、北米の大学スタイルの国際関係概論の講義を教授する。本授業の講義とディスカッションは、その半分以上を英語で実施する。主なトピックは、「国家間の対立と協力の成功・失敗が、相互意識、歴史認識、文化によっていかに左右されるのか」、ということである。受講生はトピックに関する英語資料を読み、ニュース報道や短い動画を視聴した後、その内容を自分なりに理解し、自分が重要と考えることを誰に対しても冷静に伝えられる能力を身に付けることを目標とする。後半には外国の学生と模擬国際会議のようなシミュレーションを遠隔で行う。	
	Understanding Global Society I	本授業及び「Understanding Global Society II」は、実生活に根ざした幅広い国際的な教養「グローバル・スタディーズ」の知識を英語で提供し、それを基に英語でディスカッションを行う。本授業の主なトピックは国際経済、環境、紛争と協力、移民、ネット社会、メディアなどである。これらの話題を英語で理解したうえで、考えを臆さず英語でアウトプットできるようになることは、グローバル社会を生きようとする人にとって財産になるだろう。本授業は、受講生が現代世界の幅広い分野について自分の力で考察できるようにし、それを自分の能力範囲内でも英語で伝えられるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第3類 (グローバルスタディーズ) 専門科目	Understanding Global Society II	「Understanding Global Society I」に続き、本授業でも実生活に根ざした幅広い国際的な教養の知識を英語で提供し、それを基に英語でディスカッションを行う。主なトピックは「グローバリズムとナショナリズム」であり、地球社会におけるグローバル化、民族主義、民族、といった様々な概念をめぐる言説 (Narratives) を紹介する。特に、グローバル化の反動で起こる排他主義は、感情が絡むので扱いが難しいが、グローバル社会を生きようとする人にとっては避けて通れない。本授業では、これらの話題に英語で挑戦し、困難さを避けずに相互理解を深める力を身に付けることを目標とする。	
	Global Business Case Studies I	本授業は、米国の大学の管理会計テキストで取り上げられているビジネスケースを使用して、(1)英語で書かれたビジネスケースを理解することができること、(2)英語でのディスカッションができるようになること、(3)問題解決能力を身に付けること、を目標とする。導入部では、グローバルな企業で必要とされるビジネス用語を確認しながら、ビジネスケースを読み解く。そして、そのケースの企業が抱える問題について、日本語と英語のディスカッションを通して解決へと導く。英語でのディスカッションでは、授業回が進むにつれて日本語と英語の割合を変え、英語でのディスカッション割合を高めていく。	
	Global Business Case Studies II	本授業は、(1)国際ビジネスにおける課題発見と問題解決ができるようになること、(2)英語によるビジネスプレゼンテーションの基本を修得し解決策の提案を英語でできるようになること、を目標とする。まず、海外でビジネスを展開している日本企業を取り上げ、その企業の戦略について分析するとともに、その企業の課題の発見と解決策についてチームで検討する。次に、解決策を実際に英語でプレゼンテーションする準備を通して、プレゼンテーションに必要なビジネス用語（英語）を修得する。そして、グループごとに英語による解決策の提案をプレゼンテーションする。	
	Contemporary Political Issues	本授業では、日本を含む世界の政治や社会問題に関して英語で得られる情報を通して、その話題に関する基礎的知見を得るとともに、海外メディアと日本のメディアの情報提供のあり方の違いなどを考察する。具体的には、インターネットや新聞などに掲載されている時事問題を取り上げ、受講者自身が分析し、その結果を発表することを中心に授業を展開する。本授業は、情報のクロスチェックやクリティカル・リーディングの手法を用いた情報の「読み解き方」の習得を目標とする。講義形式で実施し、英語を用いたグループワークも適宜取り入れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際学部国際教養学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関係科目 日本語教員基礎資格科目	日本語教育学概論Ⅰ	本授業は、本学日本語教員養成課程の入門的科目として位置付けられ、日本語教育の背景に関する基礎的な理解の構築をテーマとする。具体的には、海外の日本語教育事情・国内の日本語教育事情を中心に、どのような学習者・どのような教師がいて、どのような教育が展開されているのかを学ぶ。また日本語教育にはどのような歴史があり、どのような制度や言語政策が展開されてきたのかを学ぶ。本授業は講義形式で行うが、受講生は調査やプレゼンテーションを通し、日本語教育の背景に関する基礎的知識を獲得すると同時に、日本語教育の現状と実態について理解を深め、概観をつかむことを目標とする。	
	日本語教育学概論Ⅱ	本授業は、本学日本語教員養成課程の入門的科目として位置付けられ、日本語教育の現場に関する基礎的な理解の構築をテーマとする。具体的には、カリキュラムやシラバス、ニーズ調査やレディネス調査、授業での練習方法、テストや評価方法等、実際に日本語を教えるための基礎知識について学ぶ。また、日本語教科書の分析を行い、日本語教育のイメージを耕す。授業は講義形式で行うが、グループワークを多く取り入れる。本授業において、受講生は、日本語教育の現場に関する基礎的知識を獲得すると同時に、日本語教師の役割について自分なりの見解を持てるようになることを目標とする。	
	日本語教授法	本授業では、外国語教授法や学習理論、レベル別・技能別の指導法など、日本語を教えるうえで必要な知識を学ぶ。また、教材を分析し、新たな学習を実現するためには、どのようなデザインを施す必要があるかをグループで議論する。以上を踏まえ、現在の日本語教育現場への応用を目指す。具体的には、学習者のニーズに応じた「聴解活動」「読解活動」「会話活動」「作文活動」の作成を試みる。本授業では、(1)外国語教授法や学習理論について、基礎的知識を獲得することができる、(2)レベルやニーズに応じた教え方を模索し、適切な活動を設定することができるようになる、ことを目標とする。	
	日本語教育文法論	本授業では、日本語教育で用いられる日本語文法をテーマとし、日本の学校教育で指導される国文法の枠組みとは異なる視点で展開する。具体的には、初級の日本語教科書をもとに文法を日本語学習者の視点から捉え直し、各文型の特徴やそれに関連する文法項目の詳細について学ぶ。授業は講義形式で行うが、受講生は分析や例文作成などの活動を通し、客観的に日本語を見直す訓練をしていく。本授業においては、実際の教育現場に必要な専門的日本語知識を獲得すると同時に、新規の学習項目や学習者の誤用を分析する視点を身に付けることを目標とする。	
	日本語教育学特論Ⅰ	本授業では、初級日本語を教えるための基礎的な知識と方法を学ぶ。具体的には、仲間とともに教科書を分析し、学習目標と学習項目を定め、「導入」「基本練習」「応用練習」の流れや活動・練習の方法を検討する。それに基づいて教案を作成し、発表する。一連のプロセスを通して、日本語の授業の流れとそれぞれの段階に必要な活動法など、授業デザインに必要な知識を身に付ける。本授業では、(1)日本語の授業の流れとそれぞれの段階に必要な活動の方法など、授業デザインに必要な知識を学び、実践できる、(2)教案を作成することができるようになる、ことを目標とする。	
	日本語教育学特論Ⅱ	本授業では、中・上級日本語を教えるための教室運営に関する知識を学ぶ。具体的には、「初級」の学習者と「中級」「上級」の学習者の違いを認識し、中・上級レベルの学習者に合った教室活動の設定や教材・教具作成を行う。内容重視のタスクベース授業(TBLT)の具体的な活動方法を考え、効果的に教えられる力を身に付ける。本授業においては、(1)中・上級レベルの学習者にはどのような教室運営が適切か考え、理解する、(2)内容重視のタスクベース授業を行うための適切な教材選定、教材作成ができる、(3)それを用いて効果的に教えることができる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際学部国際教養学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関係科目 日本語教員基礎資格科目	日本語教育実習法Ⅰ	日本語教育実習の事前学習の一つとして位置付けられる本授業では、実際の教育実習に必要な事柄について、授業見学・授業観察・模擬授業実施を通して学ぶ、具体的には、まず授業を分析する観点を学び、実際に異なるタイプの授業を複数見学する。そして、気づいたことについて受講生間で議論し、理解を深めていく。また、見学を通して実際の教室運営の方法や、教師の役割についても学び、マイクロ・ティーチングを通して実践に向けての準備を行う。本授業において、受講生は、客観的視点に基づき授業を分析する力を獲得することを目標とする。	
	日本語教育実習法Ⅱ	日本語教育実習の事前学習の一つとして位置付けられる本授業では、日本語学習者を深く知ることをテーマに展開する。本授業では、留学生、外国人住民、技能実習生、EPA介護福祉士候補生、日本語を母語としない子ども等、多様な日本語学習者へのインタビューを行い、それぞれの課題について考えていく。そして、得た情報を元に、ミニ授業を考え、実際の日本語学習者を対象にマイクロ・ティーチングを行う。本授業では、実際の交流活動を通し、多様な日本語学習者への理解を深めると同時に、課題解決のアプローチを考えるための方法を身に付けることを目標とする。	
	日本語教育実習Ⅰ	本授業は、本学日本語教員養成課程の集大成的な位置付けとする。具体的には、国内の実際の日本語教育現場（日本語学校等）において、実際の日本語学習者を相手に、日本語授業を展開する。本授業ではそのための事前指導から事後指導までを含む。受講生は、これまで学んできた知識を統合しながら、学習者のレベルやニーズを分析すると同時に学習項目の分析を行い、オリジナルの教案を作成し、日本語授業を実施する。そして、授業をふり返り、客観的に分析し、課題を見つけ、次の授業計画に活かすという内省のサイクルを獲得し、自己成長する日本語教師としての素地を作ることを目標とする。	
	日本語教育実習Ⅱ	本授業は、より専門性を高めたい学生を対象とした、日本語教育学の発展的位置付けとする。具体的には、海外の提携大学や協力校において、実際の日本語学習者を相手に、日本語教育実習を行う。本授業ではそのための事前指導から事後指導までを含む。受講生は、海外生活において自分自身が言語的マイノリティーとなる経験を経ながら、各フィールドでの日本語教育を見学する。そして、国内とは異なるニーズを発掘し、オリジナルの授業を考え、実施していく。本授業においては、JFL環境で必要な日本語教育について模索し、実践を通して理解を深め、日本語教師としての経験値を上げることを目標とする。	

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学)

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東北学院大学				東北学院大学				
文学部		2年次		文学部		2年次		
英文学科	180	6	762	英文学科	<u>150</u>	<u>0</u>	<u>606</u>	定員変更(△30) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		12				<u>3</u>		
総合人文学科	50	3年次	204	総合人文学科	<u>60</u>	3年次	<u>242</u>	定員変更(10) 編入学定員変更
		2				1		
歴史学科	170	2年次	692	歴史学科	170	0	<u>682</u>	編入学定員変更
		3年次				3年次		
		3				<u>1</u>		
教育学科	50	-	200	教育学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更(20)
経済学部		2年次		経済学部		2年次		
経済学科	440	6	1,796	経済学科	<u>430</u>	<u>0</u>	<u>1,720</u>	定員変更(△10) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		9				<u>0</u>		
共生社会経済学科	187	2年次	766		<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		3						
経営学部		2年次		経営学部		2年次		
経営学科	341	6	1,398	経営学科	341	<u>0</u>	<u>1,368</u>	編入学定員変更
		3年次				3年次		
		8				<u>2</u>		
法学部		2年次		法学部		2年次		
法律学科	358	4	1,456	法律学科	<u>355</u>	<u>0</u>	<u>1,420</u>	定員変更(△3) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		6				<u>0</u>		
工学部		3年次		工学部		3年次		
機械知能工学科	110	6	452	機械知能工学科	<u>115</u>	<u>0</u>	<u>460</u>	定員変更(5) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
電気電子工学科	110	6	452	電気電子工学科	<u>130</u>	<u>0</u>	<u>520</u>	定員変更(20) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
環境建設工学科	110	5	450	環境建設工学科	<u>115</u>	<u>0</u>	<u>460</u>	定員変更(5) 編入学定員変更
		3年次						
情報基盤工学科	110	5	450		<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学)

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
教養学部		2年次						
人間科学科	110	2	450	0	0	0		令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
言語文化学科	110	2	450	0	0	0		令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
情報科学科	110	2	450	0	0	0		令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
地域構想学科	110	2	450	0	0	0		令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
								地域総合学部
								学部の設置(届出)
				地域コミュニティ学科	150	-	600	
				政策デザイン学科	145	-	580	
				情報学部				学部の設置(届出)
				データサイエンス学科	190	-	760	
				人間科学部				学部の設置(届出)
				心理行動科学科	165	-	660	
				国際学部				学部の設置(届出)
				国際教養学科	130	-	520	
計	2,656	2年次 36 3年次 73	10,878	計	2,716	2年次 0 3年次 1	10,878	

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学院)

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東北学院大学大学院				東北学院大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
英語英文学専攻(M)	10	-	20	英語英文学専攻(M)	10	-	20	
英語英文学専攻(D)	3	-	9	英語英文学専攻(D)	3	-	9	
ヨーロッパ文化史専攻(M)	5	-	10	ヨーロッパ文化史専攻(M)	5	-	10	
ヨーロッパ文化史専攻(D)	2	-	6	ヨーロッパ文化史専攻(D)	2	-	6	
アジア文化史専攻(M)	5	-	10	アジア文化史専攻(M)	5	-	10	
アジア文化史専攻(D)	2	-	6	アジア文化史専攻(D)	2	-	6	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	8	-	16	経済学専攻(M)	8	-	16	
経済学専攻(D)	2	-	6	経済学専攻(D)	2	-	6	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	8	-	16	経営学専攻(M)	8	-	16	
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	10	-	20	法律学専攻(M)	10	-	20	
法律学専攻(D)	2	-	6	法律学専攻(D)	2	-	6	
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	8	-	16	機械工学専攻(M)	8	-	16	
機械工学専攻(D)	2	-	6	機械工学専攻(D)	2	-	6	
電気工学専攻(M)	8	-	16	電気工学専攻(M)	8	-	16	
電気工学専攻(D)	2	-	6	電気工学専攻(D)	2	-	6	
電子工学専攻(M)	8	-	16	電子工学専攻(M)	8	-	16	
電子工学専攻(D)	2	-	6	電子工学専攻(D)	2	-	6	
環境建設工学専攻(M)	8	-	16	環境建設工学専攻(M)	8	-	16	
環境建設工学専攻(D)	2	-	6	環境建設工学専攻(D)	2	-	6	
人間情報学研究科				人間情報学研究科				
人間情報学専攻(M)	8	-	16	人間情報学専攻(M)	8	-	16	
人間情報学専攻(D)	3	-	9	人間情報学専攻(D)	3	-	9	
計	108	0	238	計	108	0	238	